

中共上層部の暗闘・妥協と自民党派閥の抗争・融合 (1)

夏

剛

序論 両国の歴史・政治文化に規定された両党の特質の異同

自民党総裁選に登場した「^{さんし}3 矢の教え」

日本自由民主党第 11 代総裁中曽根康弘（69 歳¹⁾）の任期満了（1987 年 10 月末日）の前、10 月 8 日に総裁選挙が告示され 3 人の「^{ニュー・リーダー}新領袖」が予想通り候補者として名乗りを上げた。党本部で選挙管理委員長奥野誠亮（74 歳）の告示宣言と同時に（10 時）に立候補受付^{うけつけ}が開始し、抽選を経て安倍晋太郎（63 歳）・竹下登（同）・宮澤喜一（68 歳）の順で^{とどけ}届出が行われる事に決り、3 者の代理人が^{それぞれ}其々 50 人の国会議員の推薦人名簿等を添えて^{てつづき}手続を済ませた。

11 時に届出締切りを受けて選管委は党所属国会議員に由る本選挙の日程を協議したが、各派は 30 日の予定を繰り上げる方向で一致しながらも施行期日に就いては意向が割れた。竹下派が提案し安倍・河本（敏夫、76 歳）派が同調した大幅前倒しの「14 日」案に対して、中曽根・宮澤派は「告示後最低 2 週間程度の選挙期間が必要」との理由で 20 日以降、26 日を主張した。議論が平行線を辿った末に委員長に一任され、無派閥の奥野は 20 日という裁定を示し決定に至った。²⁾

20 日は 14 日と 26 日の中間に在り 8 日・14 日及び党大会開催の 31 日と同じ大安なので、この妥協の結果は^{イベント}行事の日選びで縁起を重んじる党の伝統から見ても順当の様に思える。立候補者が 4 人未満の故に党员・党友の予備選を省略するのが繰り上げの理由であるが、30 日（仏滅）も案の 26 日（^{しゃっこう}赤口）も消えたのは大安に対する選好度の高さを浮彫^{うきぼり}にした。下旬を固持した両派が配慮を念頭に置いたと言う首相の沖縄訪問（25 日）³⁾も大安であるが、敢えて翌日を提案した宮澤派は一定程度の選挙期間の確保を唱える原理・原則論の陰に、調整に望みを託す「派利・閥益」（「党利・省益」に因んだ造語）の思惑が根底に有った。

14 日としたい竹下派の動議も大安に合せる点で古い^{イデオロギカル}体質の党の論理に適っている一方、僅か 6 日間での決着を切望する処は最大派閥の数の力に頼る短期決戦志向が透けて見える。当時各

派の勢力図では衆・参両院所属議員 445 人の中で同派の 114 人が抜きん出て多く、互いに伯仲する宮澤派 (89 人)・中曽根派 (87 人)・安倍派 (86 人) がその後塵を拝し、以下河本派 (31 人)・二階堂 (進, 78 歳) 派 (16 人) が続き他に無所属の 22 人が居た。「待てば海路の日和有り」の期待を抱く宮澤派よりも数が少ない安倍派の早期実施^{しやもう}所望は、**希望的な自信と現実的な不安**が交錯する中の「少壮派」の焦燥に駆られた疾走の様^{ひより}に映る。

8 日の『日本経済新聞』夕刊第 15 版の『3 本矢に結束の祈り / 選管委員長 受け付け順抽選』に拠ると、奥野委員長は宇野宗佑^{そうすけ}幹事長代理 (中曽根派, 65 歳) を前に告示文を読み上げ、抽選用の 3 本の矢を持ち「毛利元就の故事に因んで (闘いが) 終った後は心を 1 つに」と呼び掛けた。彼の戦国時代の武将 (1497 ~ 1571) が 3 人の息子に「3 矢の教え」を授けた逸話では、死ぬ間際に隆元 (1523 ~ 63)・元春 (30 ~ 86)・隆景^{たかかげ} (1533 ~ 97) を枕元に呼び寄せて、彼等に 1 本の矢を渡して折らせた後 3 本の矢束を折るよう命じた処^{ところ}誰も折れなかったので、1 本では脆弱な矢も束に結べば強靱に成るという道理を悟らせ 1 族の結束を訴えたと言う。隆元は^{すで}已に早逝し由来と為る元就の『三子教訓状』(1557) には矢に関する記述は無い為、折角引き合^{せつかく}いに出された伝説的な「3 矢の訓」の物語は史実ではなく創作された俗説である。

兄弟結束の理想と「同根相煎」の現実

〔北斉〕魏収 (506 ~ 72) 撰『魏書』(551 ~ 54) の『列伝八十九・吐谷渾伝』には、吐谷渾 (313 ~ 663) 国王慕容阿豺^{あさい せんび} (鮮卑族, ? ~ 424, 18 ~ 24 在位) の類似の実話が有る。子供が元就の 11 人より倍に近く多い彼は臨終前に 20 人全員を呼び寄せて後継者指名を行い、我が子を割愛し大権を自分に委ねた先代に倣って同母弟の慕瓚 (? ~ 436) に譲ると発表した。長男緯代 (経歴不詳) 等の不平を封じ協力を求めるべく彼等に其々 1 本の矢を出させた上で、同母弟の慕利延 (? ~ 452) に 1 本折らせ又 19 本から成る束を折って見るよう命じた。予想通りの結果を見ると、「単者易折、衆則難摧、戮力一心、然後社稷可固」(単なる者は折れ易く、衆なる者は^へ押し折り難い。力を合せて心を 1 つにし、然る^{しか}後に社稷は固まれる) と言って息を引き取った。今の青海・四川北部を基盤としたこの少数民族政権は一時西域で勢力を膨らませていたが、阿豺の言わば「20 子教訓遺言」は好く効き慕瓚死後の慕利延即位も障碍無く実現できた。其^{そこ}処から「一箭易折、十箭難断」(1 本の箭は折れ易く、10 本の箭は断ち難い) 等の熟語が生じ、農夫や富豪等が箸で似た教えをするという寓話も作られ中国の啓蒙教育に使われて来た。『魏書』成立の千年後の日本を舞台とする「3 矢の教え」の言い伝えの由来は分らないが、中国の史実の敷衍ではないにせよ**兄弟・肉親の争いは両国共通の現象として永遠に有る**。

〔元末~明初〕羅貫中 (1330 頃~1400 頃) 著『三国志通俗演義』の第 79 回の題は、『兄逼弟曹植賦詩 姪陷叔劉封伏法』(兄弟^{あにおとうと}に逼^{せま}って曹植詩を賦^ふし 姪^{めい}叔^{おじ}を陥^{ほう}れい劉封法^{ふく}に伏す) と為

る。魏の始祖曹操（155～220）の死後に帝を称した長男曹丕（187～226）は肉親に罪を問ひ、文才の優れた同母弟の曹植（曹操の3男、192～232）を捕まえ殺害を企むという場面では、兄弟の情・君臣の義に触れた上で死罪を赦す条件として7歩歩む間に詩を1首吟じろと言う。恰度壁に水墨画が掛っており、2頭の牛が土塀の下で争い1頭が井戸に落ちて死ぬ処が描いてあった。曹丕はこの絵を題に指定し、「二牛墻下闘、一牛墜井死」（二牛墻の下に闘い、一牛井に墜ちて死す）等の言葉を使っては行けないと命じたが、曹植がその無理難題を凌げると又もや声に応じて1首出来るかどうかを試すと言い出す。彼我の関係である「兄弟」を題としこの2字を用いては成らないと言われた曹植は即座に、「煮豆燃豆箕，豆在釜中泣。本是同根生，相煎何太急！」（豆を煮るに豆箕を燃やし、豆は釜中に在りて泣く。本は同じき根より生ぜしに、相煎る何ぞ太だ急なる）と口遊んだ。4）これを聞いて曹丕も不覚の涙を流した処へ母の卞氏が奥から出て来てその酷さを咎めたが、慌てて席を下りた彼は国法を蔑ろに出来ないと弁解し弟を安郷侯に落すことで放免した。殺意と照らせば兄弟「相煎」を諷刺する詩に対する感傷は矛盾と共に救いを感じさせるが、母親の干渉が無ければより重い処罰を下しかねない非情さは帝王らしい素質と言えよう。弟（4男）の曹熊（？～220?）は先君の葬儀に参列せず曹丕の追及で自殺したという話は、都合好く目に留まり題に成った絵の「闘牛」の存亡の光景と同じく創作の可能性が高い（『魏書・簾候王熊伝』には早逝した〔年代不明〕と記すのみで自殺の記述は見当らない⁵⁾）が、史籍の典拠が無いのに余り疑念が無く読まれて来たのは闘争に満ちた国柄の所以であろう。

乱世・変革期の「国盗り」と「下剋上」

毛利元就は次男元春を母方の従兄で武将の吉川興経（1508～50）の処に養子として送り、3男隆景を義理の甥で武将の小早川興景（1519～41）の養子にし同じく家督を継がせた。両家を半ば乗っ取る形で自家に組み込んだ「毛利両川」の政治・外交・軍事面の活躍は、其々50、44年に当主と為った彼等の間の権勢争奪への懸念を引き起したのも可笑しくない。興経が47年に不承不承ながら養子として元春を受け容れる条件として自分の生命の保証と、嫡男の千法師（10歳未満か）を元春の養子とし成長後に家督を相続させる事が有ったが、元春は50年に2人を強制に隠居させ毛利家より格上の吉川家を乗っ取ると直ちに殺害した。国を領有する事人を表す「国取り」は稍風変りの「国盗り」と書く例も散見されており、小説家司馬遼太郎（1923～96）の乱世・変革期の傑物の群像を描いた長篇の代表作にも、『国盗り物語』（『サンデー毎日』誌63.8.11号～66.6.12号連載、新潮社65～67刊）が有る。全4巻の前・後編の主人公と為る斎藤道三（1494～1556）と娘婿織田信長（1534～82）は、其々室町末期と戦国・安土時代の武将で下剋上の勢力拡張に由って国の領有に成功した。前者は山城の油問屋の入婿で油商人に

成り巨富を得た後「国盗り」の野心を抱くに至り、美濃の家督争いに付け込んで守護土岐氏（道三の父であるという説が有力）に取り入った。兄政頼（1499～1547）から守護職（第10代）を奪った頼芸（1501～82）の腹心を務め、政争・内戦・侵略の難局を乗り越えた後52年に政変を起して土岐氏を追放し同国を領した。権謀術数を巡らした末の征服は3歳年下の「知将」「謀神」毛利元就の制覇と重なり合うが、利政（道三の別称）に由る頼芸の弟頼満（？～1541）の毒殺が頼芸との対立の契機と成り、兄弟乃至親子の間でも仁義無き闘いが起り得るから元就の『三子教訓状』は時宜を得た。

『日本国語大辞典』（以下『日国』と略す）の初版（日本大辞典刊行会編，20巻，小学館1972～76刊）では，国内最大・最高の規模・権威と司馬文学の名作誕生に関らず「国盗り」の見出しは無い。新版（日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編，13巻，2000～02。以下の辞書引用は特に断りが限り現行版に拠るもの）でも，「くにーとり【国取】」の「〔《名》①国を領有すること。また，その人。国持ち〕」の用例に，「浄瑠璃・曾我五人兄弟（1699頃）道行」「浄瑠璃・源頼家源実朝鎌倉三代記（1781）五」の2点があるが，後者の「若名有武士をぶち殺せば，手柄次第で大名、国取りともなるは此時節」も含めて「盗」は出ない。『広辞苑』第6版（新村出編，岩波書店，2008）でも【国取り】（①の語釈は同上）と為るが，約24万の項目中最多の62の語義を持つ「とーる【取る・採る・捕る・執る・撮る】」では，「ぬすむ」意も含まれこの②⑦は「盗」と書くと附記されたものの見出しには入らない。『日国』の【国取】の「〔2〕他の領国を奪いとること」は用例が付いていないが，『広辞苑』の上記②（＝「つかんでそれまでの所から引き離し，または当方へ移しおさめる」）の⑤が「うばう」である。「盗む」は他者の所有物を秘かに奪い取る意で「奪う」「取る」と何れも共通の処が有り，主要な辞書に無く意味上規範に合う「国盗り」は道三や元就等の「知能犯」に当て嵌る。司馬遼太郎は連載開始時の述懐で道三の「英雄曹操にも比すべき国際級の重量」を讃え，「治政の能吏，乱世の梟雄」と人物評論家許訥に評されて大いに我が意を得た曹と比べた。漢帝国の名門の出であり20歳にして近衛部隊の高級将校に成った曹操は，後に戦乱に付け入って魏帝国の帝王に成るには已にそれだけの踏み台があったが，京都郊外の無名の家に生れ坊主、油売りの商人から身を起した松波庄九郎（道三の旧名）は，後に美濃国を我が物にして戦国の風雲に臨む様に成るには踏み台を手当たり次第に作らねば成らなかった，と述べている。⁶⁾ この小説は彼の強烈な野望とその芸術的とさえ言える手練手管の物語であるとも言うので，「国盗り」は悲願達成への道の画龍点睛として「下剋上」よりも複眼的・重層的である。

新「戦国時代」に於ける伝統精神の継承

『広辞苑』の【下剋上・下克上】の語釈は「（“下，上に剋_かつ”の意）」と説明した上で，「下

位の者が、上位の者の地位や権力をおかすこと。南北朝時代からの下層階級台頭の社会風潮をいい、室町中期から戦国時代にかけて特に激しくなった」と詳解し、用例の「太平記^{二七}“臣君を殺し子父を殺す。力を以て争ふ可き時来る故に一の一端にあり”」も有る。権力奪取の為に臣が君を殺し子が父を殺す様な非情の下剋上は力に由る争いの観が強いが、この和製漢語と次元が違う「国盗り」は**策略と力業の併用で政権を乗っ取る覇業である**。司馬遼太郎は上記の趣旨開陳で道三が戦国日本きっての大悪人と言われて来た事に就いて、徳川1族の為にのみ作った徳川体制が必死に日本人を^{こびと}侏儒にして来たのを要因に挙げた⁷⁾が、徳川将軍家(幕府)が日本を統治した江戸時代(1603～1868)には確かに風習が変わった。『広辞苑』の【戦国時代】の「①中国で、魏・趙・韓の三国が晋を分割して諸侯に封ぜられてから秦の始皇帝の統一に至る時代。(前403～前221)②日本では、応仁の乱以後、織田信長が天下統一に乗りだすまでの時代」の次に、「③転じて、多くの企業などによる激しい競争の時代」という和製語義も有る。2015年7月20日(海の日)の『読売新聞』の特集『ニッポンの産業 戦後70年』と、中の『庶民の力が「奇跡」起こした』と題する作家・経済評論家^{さかいや たいいち}堺屋太一(80歳)の談義が、②の歴史及び③の現実と関る言説や司馬の上記観点を吟味する手掛りとして注目に値する。堺屋は日本人のソフト・ウェア(読み書き・算盤の能力や規律性・勤勉さ等)を称賛し、大戦で破壊されず戦後復興で牽引的な役割を果たしたソフトは徳川時代に培われたと語る。元禄時代(1688～1704)には殺戮の気風を戒めて喧嘩や戦争は行けないと人々に植え付け、^{きょうほう}享保時代(1716～36)には社会の秩序が重視され江戸時代は殺人事件が少なかったとも言う。

経済企画庁長官を務めた(1998.7.30～2000.12.5)この識者の筆名^{ベン・ネーム}(本名=池口小太郎)は、先祖の商人が安土桃山時代に堺から谷町に移住した際の氏名(姓は屋号に当る)である。安土桃山時代は織田信長・^{とよとみひでよし}豊臣秀吉(1537～98)が政権を握っていた1573～98年か、信長入京の1568年～徳川家康(1542～1616)が関ヶ原の戦いを制した1600年とされるが、その^{しよくほう}織豊時代の闘志・機智や先人の商魂・才覚等を織り込めた日本人の精神的な遺伝子^{DNA}は、世界規模の企業乃至国家間の競争・激突が起きた新「戦国時代」にも引き継がれている。堺屋は第1次安保(日米安全保障条約反対)闘争の激化前(1960.4)通産省に入省した後、日本万国博覧会(70.3.14～9.13, 大阪)の発案・企画を以て自国の声価向上に寄与した。^{アジア}亜細亜初開催の万博の快挙を遂げた後の73年に初稿を書き上げ近未来小説『油断!』は、中東戦争勃発に由る石油輸入制限で日本は危機に瀕するという設定が同年に現実と成った。社会的な不安を増幅させない為2年遅れて日本経済新聞社より世に問うたこの警鐘と共に、退官(78.10)後の歴史小説群も**伝統精神の古層の発掘・継承**への貢献として特筆できる。最初の『^{おお}巨いなる企て』(毎日新聞社, 80)の主人公と為る石田三成^{みつなり}(1560～1600)は、秀吉の5奉行中1番の能臣として経済・財政の面で活躍し家康排除の挙兵も敢行したが、西軍内の^{こばやかわひであき}小早川秀秋(秀吉の義理の甥^{おい}, 1582～1602)等の裏切りで関ヶ原決戦に敗北し、後に徳川初代(1603～05)将軍に成る家康の命で

大阪・堺を引き回され京都で斬首された。秀吉の異父弟（1540～91）に光を当てた『豊臣秀長 ある補佐役の生涯』（1985）の4年後、同じPHP研究所刊の『鬼と人と——信長と光秀』で本能寺の変（1582.6.21）を描いたが、毛利攻めへの支援を命じられた重臣明智光秀が主の信長を本能寺に攻めて自殺させた事と、13日後に山崎で秀吉に敗れ小栗棲で落武者狩りの百姓に殺害された（歿年54?）史実も、**血腥い死闘ときな黒い陰謀が渦巻き続けた100年余りの乱世の末期症状**を呈す劇変である。

欺瞞・殺戮に満ちた乱世・暴政の遺伝子^{D N A}

曹操の幼名「阿瞞」から『孫子兵法・計篇』の「兵者詭道也」（兵は詭道也）を連想するが、春秋（前770～前476）末期の呉の孫武（生歿年不詳）が著したとされる兵法書の命題は、**用兵は人を欺く「邪道」である**と言い切った処に中国的な現実主義の真髓と迫力が有る。阿豺が子女に告げた遺言の中の「戮力」は「力を尽す」「力を合せる」という両義を持つが、「戮」は古代中国で「殺す」「辱める」の意も有り石田三成の引き回し・処刑に対応する。毛利元就の「3本の矢」の伝説の祖形と思われる中国の史実中の首領の名に有る「豺」は、群れを為して鹿・牛・羊等を攻撃する赤狼であり狼と並んで凶悪・残忍の人に譬えられる。当時「蛮族」と見做された西域の少数民族の遊牧・狩猟生活の特長と為る勇猛な野性は、織田・豊臣・徳川・毛利等に由る群雄割拠の戦国時代の日本でも鮮烈に噴き出されていた。但し始・終俱に1800年余り前の中国の戦国時代と同じく欺瞞・殺戮に満ちた乱世の後には、中国の王朝持続の記録（宋〔960～1276〕の316年）並みの長期に亘る安定が概ね保てた。宋は内憂外患に悩まされた末1127年に金の侵略に由って9代で朝廷が江南に逃亡したので、北宋以降の南宋時代を除けば連続完全支配の最長記録は唐（618～907）の290年〔0〕に為る。漢は前漢（西漢、前202～後8）・後漢（東漢、25～220）の通算で27代、406年と成るが、平帝劉衍（前9～後6、前1～後6在位）の失政等で減じ名目上の最長は実情に合わない。政権を篡奪し新朝を立てた王莽（前45～後23）は孝元皇后王政君（前71～後13）の甥で、元帝劉奭（前74～前33、前49～前33在位）即位後の皇后在位61年は史上2位であるが、身内から出た野心家の国盗りで主体民族と同じ名称の王朝には17年の断層が出来てしまった。途中で持続性が断たれた後の再建で立ち直った後半も曹操に由って200年未満で葬られ、300年超の持続的な主権・政権維持が不可能に近いという中国史の「魔呪」を実感させる。

1868年（慶応4・明治1）1月27日に新政府軍と旧幕府側との間に戊辰戦争が勃発したが、1月3日に成立した新政府は翌年6月27日に最終の勝利を取め国際的な承認を獲得した。徳川家の陸軍総裁を為す勝海舟（1823～99）の決断に由る江戸城の無血開城（68.4.11）は、戦時下の平和的な明け渡しであるだけに新体制誕生の産婆役の暴力を否定する美談に成る。決着を

主導した幕府打倒の立役者の西郷隆盛^{さいこうたかもり}（薩摩藩の指導者）は陸軍大将等を務めたが、征韓論政変（73.10）で下野・帰郷した後77年2月15日に私学私党に推されて挙兵した。政府に対する不平士族の最大の反乱は私学校（74年鹿児島に設立）の生徒が核を為したが、熊本城攻略も出来ない内に官軍に負け城山決戦（9.24）中の西郷自刃^{くじ}（歿年49）で挫けた。西南戦争以降1度も内戦が起きず日清戦争（94）に始まる対外戦争も51年後に終わったので、**内外両面の動乱・戦争が已まない古今の中国と比べれば平和・安泰に恵まれ過ぎている**。同じく権威度・被引用度が高い中型国語辞典を照らし合せてもその国情の違いは判るが、『広辞苑』に「りく・りよく【戮力】」の項目（語釈＝「力をあわせること。協力」）が有るのに対して、『現代漢語詞典』（以下は『現漢』）第6版（中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編，商務印書館，2012）の「【戮（戮）】lù」は、子見出しを設けず語釈・例示も「殺：殺～|屠～」(殺すこと。「殺戮」「大量惨殺」)でしか無い。

『広辞苑』の「さつーりく【殺戮】」の「むごたらしく多くの人を殺すこと。“大量一”」に対して、『現漢』の「【殺戮】shāilù」の「**動**殺害（多指大量地）；屠殺：～無辜」「**動**殺害（多くは大量の場合を指す）。大量惨殺。“無辜を一する”」は、「大量・惨殺」を必ずしも必須要件としないので逆に日常的な多発を思わせる恐さが有る。『日国』の「(《名》)“戮”は罪人を殺す意」罰として殺すこと。現代では、刑罰とは関係なく単に、多くの人を殺すこと」は、先ず品詞の規定で**中国的な「為す」型発想と対照を成す「である」型**を印象付けているが、同じ自国最大の国語辞典と為る『漢語大詞典』（羅竹風主編，13巻，[上海]漢語大詞典出版社，1986～94。以下は『漢典』）では，【戮】は「**①殺。②陳尸示衆。③懲罰。④暴虐。⑤羞辱。⑥通“勦”。**并，合」(①殺す。②死体を並べて示し大衆の見せしめにする。③懲罰。④暴虐。⑤辱める。⑥「勦」に通じる。併せる。合せる)と説明され，古^{いにしえ}の「罪・罰」の基軸も現代の無分別への変容も無く**法意識の一貫した不在を感じさせる**。『日国』で引いた漢籍出典は「春秋左伝－昭公二五年“為_レ刑罰獄_レ，使_レ民畏忌_レ，以類_レ其震曜殺戮_レ。”」であるが，『漢典』の初出用例の「《書・呂刑》：“殺戮無辜，爰始淫為_レ劓・刵・劓・黥。”」(無辜を殺戮して，爰^{むご}に始めて淫^{ここ}いに^{おお}劓^ぎ・刵^じ・劓^{たく}・黥^{げい}を為す)は，**法の名義に由る厳罰主義の下で罪の無い人を殺したり辱めたりする暴政を糾す内容と為る**（「劓・刵・劓」と「黥」は鼻・耳・陰部を切り取る酷刑と罪人の記の入れ墨をする懲罰）。同項目の用例（5点）中に無い『日国』の引用は魯昭公25年（前517）の出来事であるが，『書経』の件^{くだり}の記述は周穆王（？～前922，前976～前922に西周国王）が語る古訓として，蚩尤^{しゅう}（伝説上中国最古の帝の黄帝と天下を争う人）が乱を起した後に民の氣風が悪く成り，苗^{びよう}の君が政令ならぬ刑罰で抑えようとして無辜の人まで被害を蒙り忠・信を失ったと言う。

神話の中の西洋の原罪と日本の「原恥」

西洋の「罪の文化」の鍵概念には『旧約聖書・創世記』の伝説に由来した「原罪」が有り、神が創った最初の人間とされるアダムがその厳命に背いて犯した人類最初の罪と成る行為、及び彼の子孫として後世の人々が全て先天的に負う精神的な罪等の**宿罪の原点**が興味深い。神が次に創造した最初の女であるエバは蛇に唆されて善悪の知識の樹の禁断の果実を食べ、彼女の勧めでアダムが食べると2人は目が開けて自らの裸の姿に恥じ無花果の葉で腰を覆った。神は命の樹の実をも食べられることへの懸念から彼等に衣を与えてエデンの園から追放し、罰として蛇は腹這いの動物と成り女は妊娠・出産の苦痛が増し人の労働負担も加重された。アダム誕生後に神に由って出来た実の有る植物群の中央に在る2本の不可侵の「聖樹」は、**万物の存在基盤を成す生命と人間の行動準則の根幹に関する善悪の知識の重要性**を示唆する。「土」と「人間・人類」の両義を持つアダムは神が土から人間を創った意の命名であるが、彼の肋骨を取って創られたエバの「生きる」「命」の意は「土」の本源的な重みを思わせる。基督教の正典と為る『旧約聖書』の中のこの失樂園物語で示された夫婦の「罪の堕落」は、蛇に欺かれて誘惑に負けた挙動と目覚めの後に己の裸体に覚えた羞恥心が吟味に値する。『新約聖書』では人類を罪から解放した救い主としてイエス・基督を第2のアダムと呼ぶが、『創世記』と同じ第1の書『馬太福音書』(65 頃)の「蛇の如く賢く鳩の如く素直なれ」では、彼の基督教の創始者(前4 頃～後28)は原罪を誘発した蛇の狡さへの言及を避けている。中国語の「偷吃禁果」(禁断の果実をこっそり食べる)の「偷」は「国盗り」の「盗」と類義で、**原罪物語の教示には「初めに欲望・欺瞞有りき」とも言える人間の性・社会の絡繰が有る**。別の見処として「罪の文化」の起源に恥部を隠す恥の意識も混じった事が挙げられるが、掟を破った自らの「作品」に対する神の放逐は屈辱を与えた罰の様にも思えて成らない。

「原罪」を振って言えば日本の「恥の文化」の根底には「原恥」(造語)が感じられるが、国土創造神話中の伊邪那岐命・伊邪那美命 兄妹結婚と合体の行い直しの深意が思い当たる。記紀(『古事記』『日本書紀』)神話に登場するこの2人の創造神の性交は近親相姦に当り、女性から誘ったのが好くない故に畸形児が生れて最初の子を海に流したのも縁起が悪い。日本最古の勅撰正史『日本書紀』(6 国史の1つ。720 年舍人親王[676～735]等撰)では、天つ神の命を受けて国土や神を生み山海・草木を司った男神は「伊弉諾神」と表記されたが、現存する日本最古の歴史書『古事記』(太安万侶[?～723]撰録・712 年献上)の上記名称の字面は、奇妙にも失樂園の話に於ける蛇の行いの性質の「邪」やエバの名の意の「命」と重なる。「伊弉冉尊」とも書く伊弉諾神/尊の配偶女神の上記5 字中の「美」は「邪」と対を成すが、伴侶と共に天沼矛で漂流・混沌の大地を掻き混ぜて国土・人間を生んだ共同造物の伝説は、女媧氏が5 色の石を煉って天柱を補い泥を捏ねて人を作ったという中国神話を連想させる。中国古代の伝説上の3 皇(3 天子)の諸説の1つとして「伏羲・女媧・神農」が有り、『広辞苑』の「さん-こう【三皇】」ではこれが冒頭に出て「天皇・地皇・人皇」が後に続き、『日国』の同項目

の①(「②三人の天皇」は和製語義)も大同小異で、「中国古代の伝説上の三人の聖なる帝王。伏羲(ふっき)・女媧(じょか)・神農(しんのう)。あるいは、伏羲・神農・黄帝。または天皇氏・地皇氏・人皇氏などともいう」と為る。伏羲・女媧が兄妹でありながら夫婦に結ばれた事は日本神話の男・女造物主を彷彿とさせ、俱(とも)に人面蛇身の姿と伝えられる処は失樂園物語の共犯者の蛇・人の組み合わせと妙に重なる。中華民族の象徴と為る龍(りゅう)は蛇を昇華させた想像上の動物なので始祖の胴体に寓意を感じるが、2人が後に兄妹同士の婚姻を禁じ婚礼制度を設けた事は言わば「原恥」への超克と言えよう。

三皇五帝伝説に見る男性優位と現実主義

中国で最高の権威を誇る大型国語辞書+百科事典『辞海』の第6版(辞海編輯委員会編, 夏征農・陳至立主編, 上海辞書出版社, 2009)の【三皇】では、最初に『呂氏春秋・貴公』等に見えるこの概念には6種類の説が有るとしながら、「(1) 天皇・地皇・泰皇」「(2) 天皇・地皇・人皇」「(3) 伏羲・女媧・神農」「(4) 伏羲・神農・祝融」「(5) 伏羲・神農・黄帝」「(6) 伏羲・神農・共工」「(7) 燧人・伏羲・神農」と、番号・出典付き(『日国』で引いた漢籍の「列子・楊朱」は無い)の7種類を挙げている(諸説に付く出典は略す。以下諸辞書の同項目と【五帝】【三皇五帝】の場合は同じ)。『漢典』の【三皇】の「(1) 伏羲・神農・黄帝」「(2) 伏羲・神農・女媧」「(3) 伏羲・神農・燧人」「(4) 伏羲・神農・祝融」「(5) 天皇・地皇・泰皇」「(6) 天皇・地皇・人皇」は、『辞海』と比べて上記の(6)が無い以外は諸説の排列や(2)(3)の人名順だけが違う。(1)は『周礼・春官・外史』(『日国』の【三皇五帝】の漢籍出典)に対する後人の講釈に拠り、(2)は『呂氏春秋・用衆』の中の「三皇五帝」に対する注解が由来と為っている。『現漢』の「【三皇五帝】Sānhuángwǔdì」では「三皇」は通常「伏羲・燧人・神農」又は「天皇・地皇・人皇」の称とするが、前者はこれを最後に置く『辞海』では原始社会の経済発展の状況の反映として解説された。諸「皇」入りの2組を除いて伏羲・神農2氏は全て入り由緒有る女媧の出番が少ないが、女媧を上回る両者への尊崇は**男性社会の優位**の背景と共に現実的・恒久的な貢献も大きい。伏羲は民に網を編むことと漁業・狩猟・牧畜に従事することを教えたのが最大の偉業で、人身牛首と言われる神農の方は民に耕作を教えた事や百草を嘗めて医薬を作った事である。語り継がれて来た各2点の主な事績の**生産的・実用的な性質は中国人の現実主義に合うが**、人類を創出し天の崩壊を阻止したとされる女媧の神格性も建設的な役割に帰結できよう。

『創世記』に拠ると神は塵に息を吹き込んでアダムを創りその肋骨を取ってエバを創ったが、日本の天地創造伝説では大地を掻き混ぜる2神の矛から滴り落ちた物が島に化したと有る。女媧は最初に泥を捏ねて人を創り後に滴る泥を縄で漬けて飛散させ大量製造に切り替えたが、材

料に使った黄土と泥水は西洋流の塵と日本流の霰^{しずく}と3重写しの様に清濁併せる感が有り、丁寧に仕上げて行く内に億劫に成り大雑把な流れ作業に転換した鷹揚さは中国的である。日本語の「億劫」は『日国』では「《名》(形動) (“おくこう”の変化した語) わずらわしくて気が進まないさま。めんどうくさいこと。おっこう」と説明され、「おっ—こう【億劫】」の親項目「おこ—こう【億劫】」は「一《名》仏語。一劫の億倍。きわめて長い時間。→劫(こう)。二《形動》たやすくすることがむずかしいさま。転じて、面倒で気が進まないさま。おっくう」の両義である。二の用例(3点)の初出「談義本・当世花街談義(1754)」は、「おっ—くう【億劫】」の4点中の初出「咄本・近目貫(1773)？」より早い、一の3点中の初出「撰集抄(1250頃)一・六」より約500年遅い変異の経緯が興味を引く。一に無い漢籍出典は『漢典』では「南朝宋宗炳《答何衡陽書》」を初出とする3点があり、東晋～南朝宋に生きた彼の隠者(375～443)の用例は和文初出より更に800年以上も早い。同辞書の語釈は「謂極長久的時間。佛經言天地的形成到毀滅為一劫」(極めて長い時間を謂う。仏教で天地の形成から壊滅までを1劫と言う)と為るが、誇張な表現を好む中国語でもこの1義しか無い「億劫」は『現漢』では収録されていない。『現漢』の「【億】yì」(「①1万万。②古代で10万を指す。③姓の1つ」)の2つの子見出しは、「【億万】yìwàn」(=「【数】泛指極大的数目：～民衆」[(《数〈詞〉》)一般的に極めて大きい数字を指す。「億万の民衆」]),「【億万斯年】yìwànsīnián」(=「形容無限長遠的年代」[無限に長い年代の形容])である。中国の人口・国土の「大・広」と歴史の悠久や国民性の悠長・悠揚^{うか}さが思い込んで来るが、和製漢語の「億万長者」と対照的な中国語の常用例「億万民衆」は女媧の多産に根が有ろう。

炎黄抗争と女媧修繕が示唆する「原難」

エバの中国語訳「夏娃」(Xiàwá)の「娃」と同音・同声調の「媧」は「禍」と字形が重なるが、女媧の人作りの加速度的な瞬時多産・粗製濫造に中国の人口爆増の禍根も見られる反面、天柱が崩れた後に石を煉って修繕した挙動は万民乃至世界を災禍から救ったものである。その伝説中の「天柱折、地維絶/欠」(天柱が折れ、地維が絶たれた/欠れた)という事態は、『淮南子・天文訓』『国語・周語』と『史記』司馬貞補『三皇本紀』に其々違う記述が有る。1点目では共工が帝に成ろうとして顓頊と争い怒って不周山に触れた(ぶつけた)と述べ、3点目では女媧の末年に同じ覇者が祝融と戦ったが中々勝てない故に同山に触れたと書き、2点目では彼は世間に害を与え皇天・民の助けを失い禍・乱が併せ起った末に滅びたとした。『漢典』の【三皇】で『辞海』と比べて唯1つ無い説は「伏羲・神農・共工」であるが、「伏羲・神農・祝融」説の中の敵と戦った事は中国の歴史に満ちた抗争の祖形とも言える。5帝の1人とされる顓頊の後裔^{こうえい}に当る祝融は共工を殺せなかった為に帝嚳^{こく}に処刑されたが、世の中に光明^{もたら}を齎した火の

神としての貢献は火の利用・調理を人間に教えた燧人^{すいじん}と並ぶ。「3 皇」の諸説中の登場が伏羲と共に最も多い神農は炎帝（姓は姜^{きやう}）であるとも言いが、伏羲・女媧と同じ蛇身人面の共工は火の徳を以て王と成った炎帝の子孫に当る諸侯とされる。中国人は「龍的伝人」（龍の後継ぎ）と称され「炎黄子孫」（炎帝・黄帝の子孫）と自称するが、「伝人」と共に日本語に無い「炎黄」の並列・排列には中国的な心性の原点が読み取れる。炎帝（姜姓部族の首領）は中原への拡張で黄帝（姬姓部族の首領）と戦って負けたので、敗者・勝者の順で並ぶ 1 対は闘争の対立軸と下剋上の挑戦精神を体現している様に思える。炎帝撃退の過程で中原各部落の首領に推戴された黄帝は蚩尤^{しりぞ}の侵攻をも退け彼を殺したが、「炎黄」の対概念及び順番は古今の「内戦・弾圧」「乱→治」の繰返しとも重なり合う。共工が同じ「3 皇」に数えられる祝融又は黄帝的孫に当る顓頊と戦い不周山に激突した事は、炎帝や曹操等の「争覇」（覇権争奪）・「称帝」（帝を称える）願望の強烈さを実感させる。炎帝や蚩尤が惹起した中原争乱の字面に有る「原乱」から中華民族の多難の歴史を思えば、「原罪」や「原恥」に対して「原難」（造語、初めに受難有りきの意）の宿命が感じ取れる。

伊邪那岐は妻が火の神である迦具土神^{かぐつち}を生んだ為に陰部の火傷で死ぬとその嬰兒を殺し、黄泉^{よみ}の国まで伊邪那美に逢いに行った時に約束を破って彼女の惨めな姿を覗いてしまった。腐敗して蛆^{たか}に集られ八雷神^{やくさのいかづちがみ}に囲まれたその骸の怒りの追撃を振り切って地上に帰った後、此处で完全に離縁した 2 人は口論を続け彼女はお前の国の人間を 1 日 1 000 人殺すと言う。ならば自分は 1 日 1 500 の産屋を建てると言う彼の応酬は女媧修繕の建設性を内包するが、アダムとその肋骨で出来たエバの間には憎悪の言葉を掛け合う反目や骨肉の争いは無い。炎帝の中原侵攻と耕作・医薬の祖の両面は共工・女媧の対と共に其々禍・福と対応するが、別の次元の「五帝」（諸説有る）の中央の神とされる黄帝も医学の創設者と言われており、養蚕や舟・車と文字・音律・算数等の発明も民族の「軟件・硬件」^{ソフト・ウェアハード・ウェア}の始祖の貢献に為る。「炎」先「黄」後は食を以て天と為す民の観念や衣食足りて礼を知る社会の法則に合い、伏羲・神農とも発明者と伝えられる 8 卦の陰陽思想に即して 2 帝の相剋相生も目を引く。火は金に克ち、金は木に克ち、木は土に克ち、土は水に克ち、水は火に克つという 5 行相剋^{ごぎやう}は、木は火を生み、火は土を生み、土は金を生み、金は水を生み、水は木を生むという 5 行相生の単純な反転ではないが、木を擦り合せて火を起した燧人と同じ「火」を字形・実質に持つ炎帝は火の徳の代表で、土の徳の持主である黄帝の前に置かれる「炎黄」は巡り巡って相生の順番とも符合する。火が克つ金^{ほこ}は戈（矛）等の兵器の意味なら 2 帝の「戮力」ならぬ「戮」の部首と通じるが、「火」と「戮力」の類義語「併力」の「併」が合成した「火併」（^{へい}“拼”とも）（死闘）は、共工の「玉碎」（中国流＝「与石俱焚」）の怒気と共に中国人には生れながらに起り易い。

日本の「中空」構造と中国の「中控」構造

『広辞苑』の【五帝】は「古代中国の伝説上の五聖君。『帝王世紀』には小昊^{しょうこう}・顓頊^{せんき}・帝嚳^{ていこく}・唐堯・虞舜, 『史記』には黄帝・顓頊・帝嚳・堯・舜を挙げる」とし、『日国』の同項目は「(《名》)中国古代の聖君五人。諸説あって、『史記-五帝本紀』は黄帝・顓頊(せんぎょく)・帝嚳(ていこく)・帝堯・帝舜として、『書経-序』は少昊(しょうこう)・顓頊・帝嚳・唐堯・堯舜とし、また、包犧(ほうぎ)・神農・黄帝・堯・舜をいうこともある」と為る。→で参照を指示する【三皇五帝】(『《名》の明記が有る【三皇】【五帝】と違って品詞規定は無い)では、「三皇」は同辞書の当該項目中の3説の最初の方であり、「五帝は黄帝・顓頊・帝嚳・帝堯・帝舜(人名・排列に諸説ある)。陰陽五行・天文・道德思想の所産」と言う。『漢典』の【五帝】の①の定義は「上古伝説中の五位帝王」(上古伝説中の5人の帝王)で、「説法不一」(諸説有る)として「(1) 黄帝(軒轅)、顓頊(高陽)、帝嚳(高辛)、唐堯、虞舜。(2) 太昊(伏羲)、炎帝(神農)、黄帝、少昊(摯)、顓頊。(3) 少昊、顓頊、高辛、唐堯、虞舜。(4) 伏羲、神農、黄帝、唐堯、虞舜」の併記が有る。②は語釈の「古代所謂五方天帝」(古代の所謂^{いわれる}5方の天帝)の後に、[東漢] 鄭玄(127～200)の注として太昊・炎帝・黄帝・少昊・顓頊説(上記[2])が出る。『辞海』の同項目の①は三皇の後と夏代の前の伝説中の上古の帝王とし、「(1) 伏羲(太昊)、神農(炎帝)、黄帝、唐堯、虞舜。(2) 黄帝、顓頊、帝嚳、唐堯、堯舜。(3) 太皞、顓頊、炎帝、黄帝、少皞。(4) 少昊(皞)、顓頊、高辛(帝嚳)、唐堯、虞舜。(5) 黄帝、少昊、帝嚳、帝摯、帝堯」の諸説の後に、彼等は全て原始社会末期の部落又は部落連盟の首領「聖君」であると付け加えたが、(1)(3)と『漢典』の(2)の配列を見れば「炎黃」の順番の正統性も感じられて来る。『漢典』の(2)と『辞海』の(3)(5)も『広辞苑』の「小昊」の表記も『日国』の「包犧」の表記も他に類を見ないが、『現漢』の【三皇五帝】中の「五帝」は「黄帝、顓頊(Zhuānxū)、帝嚳(Dikù)、唐堯、虞舜」は、『漢典』の(1)、『辞海』の(2)、『広辞苑』の2説中の後者、『日国』の最初「唐」「虞」を「帝」に作る表記が違う)と同じである。両国共通のこの説で黄帝に次ぐ顓頊が共工を殺し損ねた所^{せ い}為で次の帝嚳に斬られたとは、中国で「聖君」と言わない此等の古代伝説中の帝王の間の相剋の熾烈さを物語っている。

臨床心理学者で文化庁長官を務めた(2002.1.18より5年)河合隼雄^{はやお}(1928～2007)は、日本的な心性の根底を解明する図式として『古事記』神話から中空・均衡構造を見出した。天地開闢^{かいびやく}の際高天原に出現した高御産巢日・天御中主・神産巢日の造化3神中の天御中主、伊邪那岐・伊邪那美が生んだ天照・月読・須佐之男の3貴神中の月読は無為の性格が濃く、天照^{あまてらす}大神(高天原の主神)の天孫邇邇^{つくよみ}芸命と木花之佐久夜毘売^{すさの}の間に生れた3神の場合も、中央の火須勢理命^{おほみかみ}は兄海幸彦^{にぎのみこと}(火照命)・弟山幸彦^{このはなさくやひめ}(火遠理命)と対照的に殆ど語られない、という盲点めく構図の特徴は神話にも見る西欧型の中央統合構造との対比に用いられた。論文『「古事記」神話における中空構造』(『文学』[岩波書店]1980年4月号)の指摘は、皇室の祖神(天照大神)の位置と皇室崇拝の中心との乖離から天皇制の在り方にも関る。刊行(4.10)の15

日前に64年の人生を終えた^{フランス}仏蘭西の哲学者ロラン・バルトは10年前、森に蔽われ^{ほり}濠に囲まれている閑静な皇居が大都会東京の空虚の中心を成していると直観し、都市の中心に聖堂や広場、庁舎等を設ける^{ヨーロッパ}欧州との比較を『表徴の帝国』の中で展開した。中国は北京の中心部に最高権力機構や天安門広場・人民大会堂（国会議事堂）等が有り、^{ギリシャ}神話の世界でも希臘神話並みに神々の中に常に至高の神が中央に居るので欧州と共通する。上記論文を収録した河合著『中空構造日本の深層』（中央公論，82）の題に擬えて言えば、中国の政治・社会・思想等の深層には「中控」（中央「控制」[制御]）の構造が見て取れる。この「控」（「空」と同じkong）の支配の意は日本語の控え目な「控える」と逆であるが、和製漢語「中空」（中国語＝「空心」）の「空」に付く手偏は無為の反対の有為を象徴する。5方の帝の中央に位置する黄帝は三皇五帝の諸説の中で1番目か真ん中に出るのが多いが、その「居中」（中央に居る）の優位には争奪を経た「占中」（中央を占拠する）の節が有る。

古・今「^{しんのしこうてい}秦始皇」の集権・好戦と神格性

「制御」の和製語義として機械や化学反応等が適宜に動作する様に操作する事にも言うが、『日国』の【制御・制禦・制馭】のこの②の挙例は『輸出貿易管理令』（1949）から採った。「史記・始皇本紀」“下不_レ敢為_レ非，以制_レ御海内_レ”を引いた①（同じく名詞）の語釈は、「相手の行動や気持などをおさえて自分の思うままに自由に扱うこと。支配し調節する。統御」である。和文用例（4点）中の初出「百丈清規抄（1462）一“天子の天下を制馭する〈下略〉”は、秦の始皇帝（前259～前210、前221～前210在位）^{ゆかり}所縁の「海内を制御す」と通じる。類義語の【統御・統馭】は「《名》全体を支配し、思い通りに扱うこと」と解釈され、漢籍出典は軍事絡みの「孔叢子－儒服“統_レ御師旅_レ，則有_レ介冑之服_レ”」と為っている。英語のcontrolに対応する「制御」が現れた年に建国した中共の党首毛沢東（1893～1976）は、「現代の秦始皇」と呼ばれる程に全体主義（中国語＝「集権主義」）の統御を強行した。「制御」の上記語釈中の「おさえる」の漢字「抑」「押」の後者の「手・甲」の組み合わせは、伝説上の始皇帝と言える黄帝が自らの手で天下第1の座を勝ち取った事に妙に暗合する。『古事記』神話の上記諸神の中で唯一凶暴な須佐之男は凶暴で天の岩屋戸隠れ事件を起し、高天原から追放された後出雲国で^{やまたのおろち}八岐大蛇を斬って天叢雲劍^{あまのむらくものつるぎ}を得て姉の天照大神に献じた。中央の神の無為や存在感の稀薄を際立たせるその蛮勇は対人殺戮には発展する事が無く、三皇五帝中の黄帝・炎帝と顓頊・帝嚳乃至周辺の蚩尤・祝融・共工の征伐と対照を成す。天照大神の天孫を父とする3神の中の火須勢理命は『広辞苑』では立項されていないが、無に近い存在は中国で多い兄弟の争いを思えば両側間の緩衝装置・真空地帯の様に見える。中国語の「空」は第1声と読む場合は^{から}「空だ」「実際にそぐわない」「^{そら}空^{むな}しく」の意で、第4声の方は「^あ空ける」「空いた儘」「利用されてい

ない空間。隙間」「空き時間」の他に、同声調の「控」と通じる「逆さに吊す」「(容器等の口を)逆さにする」等の語義も有る。この「空」と「控」の「操作・支配する」「告発する」意の能動的・攻撃的な意と合せれば、「中^{おのれ}控」は己の目的通り展開する意図や中^{から}を空にする排他的な駆除の性格が強いと言える。

李白(701～62)は「秦王掃六合、虎視何雄哉！」(秦王^{りくこう}六合を掃^{はら}うて、虎視^{なん}何ぞ雄^やたる哉)と、韓・趙・燕・魏・楚・斉を滅ぼした秦王嬴政(前247国君即位)の雄偉な気魄を讃嘆した。「詩仙」の『古風詩五十九首之三』の冒頭のこの句は虎視眈々の貪欲と出撃の戦果を描き、中国統一の偉業と始皇帝即位の野望の達成に至るまでの強敵打倒の死闘・圧勝を思わせる。次の「揮劍決浮雲、諸侯尽西来」(劍を揮^きって浮雲を決れば、諸侯^{ことごと}尽く西に来る)の前半は、『莊子・雜篇・説劍』の「上決浮雲、下絶地紀。此劍一用、匡諸侯、天下服矣。此天子之劍也」(上は浮雲を決り、下は地紀を絶つ。此の劍は一たび用うれば、諸侯を匡^たし、天下服す。此れ天子の劍^{なり}也)に由来する。「地紀」は「共工怒触不周山」「女媧補天」の伝説中の「地維」と同義で大地の根本^{ねもと}を指し、万民の命の綱を為す国土の基盤をも容易^{たやす}く崩せる天子の劍の威力は超絶の利器と言える。須佐之男が蛇を斬り劍を得た話や伊邪那岐・伊邪那美が矛で大地を掻き混ぜた話と違って、天子の劍の使用は風雲をも恣意に操る「天上天下、唯我独尊^{カリスマ}」の神格性^{こんげ}の権化の様に思える。「虎視・揮劍」「掃六合・決浮雲」は天地創造の「開闢」と同じ部首の「闢」を連想させ、「雄・闢」は「好戦的な雄鶏^{おんどり}」(中国語＝「好闘的公鶏」)という貶し言葉を思い起させる。ソ連最高指導者フルシチョフ(1894～1971, 1953～64在職)はこの辛辣な比喩を以て、冷戦時代の東西対抗の中で毛沢東治下の中国の対外的な冒險志向等を痛烈に非難したが、中国語の「公鶏」は「攻撃」と同音・同声調(gōngjī)なので意外な妙味と一理が有ろう。中国本土の版図は蒙古^{モンゴル}独立(24.11.24)に由って元の海棠^{かいとう}の葉の形から鶏の形に変わったが、頭・尻に当る東北・西北部の「北極熊」との隣接も中国に対する恐懼の1因かも知れない。

日本の「凹型文化」と中国の「凸型特質」

「虎視何雄哉」「揮劍決浮雲」の字・義は熟語の「一決雌雄」(雌雄を決す)と繋がるが、中国語の「雌雄」の語順は「強弱」「優劣」「高下」等と同じく声調順に由ると考えられる(この4単語の cīxióng, qiángguò, yōulüè, gāoxià は第1→2声、同2→4、1→4、1→4)。英国の劇作家シェークスピア(1564～1616)の悲劇『ハムレット』(1601頃)の台詞に、「弱者^{せりふ}者よ、汝の名は女^{なり}也」という現代中国でも長らく共感を得て来た切ない嘆きが有る。「弱者^{イメージ}」の形象が付き纏う「雌」(女性)が「雄」(男性)の前に出るのは深読みするなら、「弱肉強食」や「炎黄」と同じく敗者の退場→勝者の登場という風にも取れなくはない。他方では春秋時代の思想家・道教の始祖である老子(生歿年不詳)の思辯・主張を見ると、『道德経』の「無名、天地

之始;有名, 万物之母」(無名は天地の始め, 有名は万物の母), 「知其雄, 守其雌, 為天下谿」(其の雄を知り, 其の雌を守らば, 天下の谿^{たに}と為る) の様に, 「雌」こそが「始」の「女・台」の字形の通り万物の母で逆説的な優位にも立つのである。哲学者上山 春平 (1921 ~ 2012) は道教から日本の「凹型文化」の理論的な拠^{よりどころ}所を見出し, 老子が女陰を表した「谷神・玄牝之門」の様な窪^{くぼ}み・穢^{けが}れ等の包容性・生産性を肯定した。対して中国の社会・文化・心性等には「凸型」の特質が様々な様態や表現で見られており, 「和平崛起」(平和的な勃興) という 2003 年秋に当局筋が打ち出した合言葉が 1 例に成る。日本語の定訳と為る「台頭」で表し切れない「崛起」の奮起・突起等の意味合いの迫力は, 「雄飛」「勃起」「頑張る / れ」等の含みが有る四川方言の「雄起」なら遺憾無く伝えられる。

鄧小平 (1904 ~ 97) や共和国元帥 (1955.9.27 授与) の 10 中の 4 人は四川出身であるが, 明治維新に於ける同じ西南部の薩摩の役割とも似て曾て変革の先駆者が輩出した同省では, 80 年代頃に蹴球観戦中の熱狂的な声援から「雄起!」の雄叫びが飛び出て一時風靡した。⁸⁾ 無欲・無為を唱える道教が思想界の主流に成れず女神も至高の天帝に成れない中国では, 「雄起」の激励・鞭撻の様に能動的な進取精神や加虐的な攻撃性が突出する場合が多い。時の党首・国家主席胡錦濤 (42 ~) の智囊である鄭必堅 (32 ~ , 四川出身) が提言し, 温家宝総理 (42 ~ , 2003.3 ~ 13.3 在任) が外交の場で正式に表明した「和平崛起」は, 外国語に訳すと勢力拡張や武力征服を連想させ易い嫌いが有るとして数ヶ月で退場したが, 「中国脅威論」を避ける為「和平発展」に差し替えたのは爪を隠す鷹の韜晦に他ならない。「必堅」の名に有る「堅」から和製漢語「堅調」に当る中国語の「堅挺」を思い起すが, 「疲軟」(軟調) と同じく相場の傾向の他に男の性的な能力の強弱を表すのが中国的である。2004 年蹴球亜細亜杯決勝戦 (8.7, 北京) で中国が日本に負けた結果中国人観客が暴徒化し, 以来中国国内の日中戦で略例外無く両国の観客を分離する「隔離観戦」が実施されて来た。中国で「9.18 事変」と呼ばれる「満州事変」(1931) の 84 周年に当たる日の『読売新聞』に, 中国総局の竹内誠一郎 (71 ~) の『サポーター隔てる空席』と題する囲み記事が有り, 去る 8 月 9 日の蹴球東亜細亜杯の日中戦で両グループの間に数千の空席が隔てていたと書かれた。『習近平の密約』(文春新書, 2013) を共著した筆者が何度見ても馴染めないとした光景は, 人為的な「中空」(中間の空席) を以て自国民の暴走を防ぐ「中控」の所産として捉え得る。

湖北新軍の蜂起で勃発した辛亥革命 (1911.10.10) の地である武漢は独特の精神風土が有り, 数千席分の空席に由る遮断は危害が起きかねない地域特有の危険性の高さを物語っている。日本軍が日中戦争 (37 ~ 45) を念頭に作った「兵要地誌」で要点と為る「国民性」の例に, 「天上九頭鳥, 地下湖北佬」(天上に 9 つの頭を持つ鳥が居り, 地上に湖北の奴が居る) と有る。⁹⁾ 「九頭鳥」は 9 つの首が有る不吉な妖鳥で凶暴なものや狡賢い人・凄い人に譬えて言うが, 中国のこの諺は好く湖北人の好戦性・勇猛・計算高さ・精悍さ等の形容に使われている。南昌蜂

起(27.8.1)で成立した中共軍の初代将軍の中で出身者が最多の紅安県も同省に在り、旧名「黄安」の同県から初代国家副主席董必武(1886～1975, 54.9～75.1 在任)・第3代国家主席(83.6～88.4)李先念(09～92)等の軍人出身の開国元勳・党政要人^{たぐさん}が沢山出た。元帥の出身地では湖北は俱^{とも}に隣接する四川・湖南の4人、3人に及ばず山西・広東と並ぶが、唯^{ただ}1人の林彪(07～71, 序列3位)は毛沢東(湖南出身)の後継者に推された(66～71)。南北・東西の交差地帯に在る湖北の人々の気質は中国の各地域と部分的に通じる処が多く、「九頭鳥」性格は林が体現した上記側面の他に言説の喧しきや自己主張の強さも含まれる。この2点を世人に見せた省都武漢の出身者として^{テニス}庭球選手^な李娜(1982～)が思い泛ぶが、2011年に男女を通じて亜細亜勢として初めて世界4大会単試合での優勝を果たした彼女は、北京五輪(08.8.8～24)の女子単決勝戦で^{ロシア}露西亜選手に敗れた悔しさを同胞に向けてぶつけ、「頑張れ、中国」という間の悪い掛け声を発した観客に“shut up!”(黙れ)と怒鳴った。引退の翌15年の日本推理作家協会(1963年成立)主催の第61回江戸川乱歩賞の候補作に、^{はるはたゆきなり}春畑行成(72～)の『強き者よ、汝の名は女なり』が人を食う様な題で注目を引いた。4世紀前のシェークスピアの苦心の1句を振った名は女性^{もじ}の地位向上の世相を映しているが、同時代の「女強人」(女丈夫)は率(比例)・質(程度)とも全般的に中国に劣っている。

日本政界の男性中心・女性劣後の傾向

エバの所為^{せい}で女性は妊娠の負担・出産の苦痛と夫への奉仕を強いられる様に出来たと言うが、**原罪に対する神の「原罰」**(造語)は^{キリスト}基督存命(前4頃～後28)の2000年後も解いてない。例えば、麻酔や精神的予防法等に由る無痛分娩は歴史も浅くなく今や欧米では主流を成しているが、「お腹を痛めて産んでこそ母」という固定観念が有る日本では全体の4%程度と推定される。¹⁰⁾ 曾て4男5女の9子を儲けたビクトリア英国女王(1819～1901, 1837～1901 在位)は、1853年の4男(第8子)出産で痛みに耐える事を止め麻酔科医の施術に由る方式を採った。基督教の影響も有って市民権が無かった無痛分娩はこれを契機に英国国教会に承認され、以後の急速な広がり海外も及び米国では1940年頃に硬膜外麻酔方式が生れたとされる。日本では思想家・教育家福沢諭吉(1834～1901)が1885年に提唱した「脱亜」を経て、60年後の敗戦に由って明治の「入欧」から「随米」(造語、米国追隨の意)へ傾斜したが、陣痛を和らげ体力の消耗を抑える欧米流の合理主義的な無痛分娩は普及とはまだ程遠い。俱^{とも}に大陸と隔てた島国で紳士的な国民性の誉れが高い英国の皇室とは単純に比較し難いが、皇族の出産で2006年9月6日の^{ひさひと}悠仁親王誕生が帝王切開の第1号と成った事は象徴的で、母親の^{あきしのみやふみひと}秋篠宮文仁親王妃^ひ紀子^{きこ}が満40歳の5日前に当る高齢出産が必然性として考えられる。04年に浮上し首相の私的諮問機関が検討した皇族男子の不足に因る皇位継承問題の危機は、父親の出生(1965.11.30)

以来の男子（皇位継承順位第3位）誕生に由って回避されたが、皇室は女神の天照大神を祖神とする陰の優位の1面とは裏腹に**男性中心の性質**が根強い。夫に仕える妻の宿命に対する了解は和製漢語「女房」の派生語「女房役」に現れており、『広辞苑』の語釈と為る「(妻が夫を補佐するように) 補佐の立場にある人。補佐役」は、昨今の日本で厳しく成る一方の差別用語狩りの範囲外に在り**男尊女卑の伝統**を匂わせる。内閣官房長官が総理大臣の「側近」^{ふところがたな}「懷刀」^{あそう}「番頭」等の他に「女房役」とも呼ばれる事は、政界の規矩でも皇室の典範と同じく男性を支え又は引き立てる女性の役目を示している。

日本の自由民主党でも結成(1955.11.15)以来60年の間の25代の**総裁は男性1色**であり、総裁選立候補者の延べ131人中2008年に漸く「紅一点」(小池百合子, 56歳)が現れた(9月22日の国会議員に由る本選挙での得票は5人中第3位の46票, 1位の麻生太郎[68歳]の351票の端数にも及ばない)。党4役中の女性起用も小池の総務会長(谷垣禎一[1945~]総裁[2009.9.28~12.9.26]時代の10.9.9~11.9.30)が始まりで、次の安倍総裁(1954~)の下で一時総務会長・政務調査会長とも女性が務める時期(12.12.25~14.9.3)が有り(野田聖子[1960~]・高市早苗^{さなえ}[61~]), 序列4位の政調査長は更に稲田朋美^{いなだともみ}(59~)に引き継がれたが、総裁に次ぐ要の幹事長及び4役外の非常設の副総裁の職位は女性に委ねた事が全く無い。史上初の女性衆議議長土井たか子(1928~2014, 1993.8.6~96.9.27在職)は日本社会党委員長経験者なので、自民党は男女共同参画大臣設置(2001.1.6)等で**女性登用の意欲を訴求する割には実績が乏しい**。世界経済論壇^{フォーラム}(WEF)が14年10月28日に発表した同年の世界男女平等度順位^{ランキング}では、日本は前年より1つ上がったものの142カ国中の104位で先進国中の最低水準に甘んじた。経済・政治・教育・健康の4分野に於ける男女格差の縮小度を基準とする同調査の結果、先進国の中で仏蘭西は政界での女性の活躍を主な理由に前年より最も躍進した(45→16)、米国も閣僚級の役職を占める女性数の改善が大きな要因と為り3位上昇の20位に成った。¹¹⁾同機構が06年から公表して来た同指標の内の政治的な男女格差指数の評価基準は、国会議員の男女比・閣僚の男女比・国家元首の在任年数(直近50年)の男女比であるが、韓国は前年に就任した(2.25)初の女性大統領^{パク クネ}(朴槿恵, 1952~)の在職も寄与せず、不平等の程度が大きく伝統も長い故に日本と略同列だった前年の111位から6位下がった。

翻って言えば、紐育^{ニューヨーク}の「世界を照らす自由の女神」像が合衆国の自由・民主主義の表徴と成る米国でも、羅馬神話^{ローマ}に取材したこの女神と同性の大統領は合衆国独立(1776.7.4)以来1人も居ない。像の本体は米国独立100周年記念の為に仏蘭西人主導の募金に由って巴里^{パリ}で作られたが、1789年の革命(7.14)で「自由・平等・博愛」の原理を生み出した彼の国も同様である。2008年米大統領選挙に第42代(1993.1.20~2001.1.20)のクリントン(1946~)の妻ヒラリーが出馬したが、後の朴大統領と同じ61歳での就任の夢は民主党大会での撤退表明(8.27)を以て潰えた。史上初の黒人・本土外出身者として当選したオバマ(61~, 2009.1.20より2期)

の指名で、副大統領（男性が歴代を独占した職位）に次ぐ国務長官（09.1.21～13.2.1）を務めたが、第64代のオルブライト（1937～，97.1.23～2001.1.20在職）と前任のライス（05.1.26就任時58歳）に続く3人目の女性同職経験者として、実績と知名度を武器に15年4月12日に来年の大統領選への立候補を勇ましく宣言した。仮に当選しても先進国の仏蘭西・独逸・イタリア等の女性元首の空白を浮彫にするので、オバマが謳った「変化」は「硝子の天井」が感じられる国家権力の頂点では実に難しく、「不易」の中国語での「容易くない」意も日本語での「変らない」意も此処に適用である。日本を含む西側（資本主義・自由主義体制）諸国は「普遍的価値観」を誇り高く標榜し、自由・民主主義・基本的人権・法治・市場経済等の原理の世界的な普及を図っているが、日本の政界に於ける女性の劣後は然様な押し付けに抵抗する現代中国よりも遜色がある。

中共「党・軍複合体」の頂点の男性独占

「普遍的価値観」に対応する中国語の「普世価値」の「普世」は『現漢』第5版（2005）では、「**名**」普天下；**挙**世：～**欲**騰」（《**名**」満天下。世の中全て。「天下の人々が遍く喜びに沸く」と説明・例示されたが、現行版では②「**形**」属性詞。世界上普遍認同的。価値 | ～倫理」（《**形**」属性詞。世界で普遍的に認められている[もの]。「普遍的価値」「普遍的倫理」）が追加された。**編集**グループが属する中国社会科学院は国務院直属の「**智庫**」であるだけに官製の性質が濃く、件の新語に対する俊敏で好意的な反応は時の当局・世論の肯定的な受容を物語っている（対して日本では06年に中国等を標的とする「価値観外交」が政府に由って提唱されたが、基と為る米国発の「普遍的価値観」の概念は2年後の『広辞苑』新版には入っていない）。ところが刊行の5ヵ月後に誕生した習近平（1953～）体制（2012.11.15総書記就任）の下で、13年5月に党中央宣伝部は大学の授業等で「普世価値」等を語るなという禁止通達を出した。その乱暴な言論規制にも拘らず中国の同年の男女平等度順位は11年と同じ世界の69位で、毛沢東（1893～1976）時代（49～76）以来の男女平等政策に由る日・韓への優位を守った。翌年に韓国の3倍に当る幅で下がり87位に落ちたのは**発展の失速と連動**する様であるが、**男女格差の拡大**は中共中央第18期第1回全会で選出された最高指導部にも見受けられる。党・国を司る7人の政治局常務委員は当選時に満68歳以下という不文律の縛りが有るが、5年後の次期常委会入りの機会が最早残されていない政治局委員（25人中の11人）の内に、唯一の女性である劉延東は当月で満67歳と成り権勢が強い共産主義青年団閥の花形なのに、5ヵ月～2歳余年下の**俞正声**と**張徳江**・**張高麗**・**劉雲山**・**王岐山**（生れは45.6と同じ46.11、47.6、48.7）に道を空けた。序列3、5、7位の**張**・**劉**・**張**は江沢民（1926～，89.6.24～2002.11.15総書記）派とされ、「**老男人俱樂部**」と揶揄された組成は**胡錦濤**前総書記（1942～）や習の妥協も有

ろうが、創設 (21.7.23) 以来**歴代最高指導部に女性が皆無という党の伝統への踏襲**とも見て取れる。新しい政治局の 25 人中的もう 1 人の女性孫春蘭 (50.5 生れ) は次期も当選線上に在るが、天津市党委書記を務めた 1 年後の 14 年 12 月に中央統一戦線工作部長に転出した時点で、元部長劉延東 (02.12 ~ 07.12) と同様「入常 (委会)」の出世軌道から外された様に思える。何しろ中央直轄市の天津の歴代の党委責任者には前任の張高麗 (07.3 ~ 12.11) だけでなく、曾て李瑞環 (1934 ~ , 87.8 ~ 89.10 在職) も政治局常委会に在籍した (89.6 ~ 2002.11)。一方の統戦部長は要職ながらも最高指導部成員を輩出した組織部長・宣伝部長と対照的で、建国後の孫までの 11 人は常委会入りどころか失脚や左遷が多く前途洋々と言うには程遠い。孫春蘭は建国後 2 人目の省委書記 (福建, 2009.11 ~ 12.11) として敏腕の誉れが高いが、1 人目の万紹芬 (1930 ~) は建国 36 年目から江西省党委書記を担当した (85.6 ~ 88.5)。日本の都道府県に当る本土の 1 級行政区 (建国時は 41, 現在は 31) の実質的な最高首長は、建国から 65 年経っても 3 人目が出る気配も無いので女性重用の度合は意外にも可^{かなり}也低い。

2013 年の全国人民代表大会代表 (国会議員) 中の女性の比率は史上最高の 23.4% に達し、日・米の 11.4%、18.7% と世界平均の 21.5% を上回る水準¹²⁾ は男女平等度順位に貢献した。但し『中華人民共和國憲法』(54.9.20 制定) で国家の最高権力機関とされている全人代は、海外から長年「ゴム判」と揶揄された程に**1 党独裁の意思決定を追認する装置**の感が強い。建国当初の中央人民政府副主席 (49.10.1 ~ 54.9.27) の 6 人中の第 3 位が女性の宋慶齡で、中華民国 (12.1.1 成立) の「国父」孫中山 (1866 ~ 1925) の夫人として尊ばれる彼女は、同職から改称した共和国副主席の第 2 代 (59.4.27 ~ 75.1.17, 2 人中の 2 位) を務めた後、再び全人代常委会副委員長に転出し朱徳の死後その委員長職を 78 年 3 月 5 日まで代行した。憲法修正 (75.1.17) で国家主席は廃止され全人代常委会が元首の機能を果す建前と為った故、約 20 ヶ月の代行は元首格扱いで国の男女平等度順位の点数稼ぎに成ったかも知れないが、毛・鄧時代の国家主席や全人代委員長を元首と見做すのは中国政治に対する無知である。毛沢東死去の 76 年 9 月 9 日に発表された『告全党全軍全国各族人民書』(全党・全軍・全国各民族人民に告ぐ書) は、中共中央・全人代・國務院・党中央軍事委員会の連名と違う「党・軍・国・民」の順に、彼が其々 43 年、35 年から主席を為す党中央・中央軍委の国家に対する優位が読み取れる。鄧小平死去の 97 年 2 月 19 日に発布された建国後 2 回目と成る同じ題の訃報の諸機構は、國務院の次に中国人民政治協商会議 (超党派の政治助言機関) 全国委員会が追加され、中国共産党中央軍事委員会は中国共産党・中華人民共和國中央軍事委員会に変更されたが、党中央軍委主席 (81.6 ~ 89.11) として党の総書記・国家主席を凌駕した事を見ても、同年 6 月 16 日の朝鮮労働党中央機関紙『労働新聞』に登場した「**先軍政治**」を連想させる。朝鮮民主主義共和国 (48.9.9 成立) の創設者金日成 (12 ~ 94) の長男金正日 (42 ~ 2011) は、2 世領袖に成る前に先ず人民軍最高司令官、国防委員会委員長 (其々 91.12.24, 93.4.9 ~) を父から受け継ぎ、「先軍政治」を宣

言した後に始めて党（45.10.10 創設）の党書記への推戴を受けた（97.10.8）。98 年 9 月の最高人民会議で国防委員長が国家の最高職務と定められたのは「軍国」らしいが、中共「党・軍複合体」（造語）支配下の中国では「民主党派」の存在が朝鮮より益^ましである。例えば建国初期の 3 人の女性閣僚の中の初代司法部長（49.10～59.4）史良（00～85）は、諸翼賛政党の中で中共が最も重視した中国民主同盟（44.9.19 結成）の代表として入閣した。均衡^{バランス}感覚に富む初代総理周恩来（1898～1976、建国後逝去まで在職）の周到な組閣の妙は、同じ女性・党外人士の李徳全を初代衛生部長（厚生相、49.10～65.1）に据えた処にも見える。李（1896～1972）は反蒋介石（1887～1976）の国民党軍将領馮玉祥^{ふう}（1882～1948）の妻で、その厚遇は宋慶齡の場合と同工異曲で亡き先賢への表敬の意味も含む一挙三得と言える。

主体民族の名称の寓意と「先軍」の遺風

「先軍政治」は基本的な政治方式であり革命を勝利に導く万能の宝剣であるとされたが、中共の政権奪取を導いた「3 大法宝」（3 種の神器）は「統一戦線・武装闘争・党の建設」である。毛沢東・鄧小平が死去まで全国政協会議名誉主席を兼任した（其々 1954.12、78.3～）事は、周恩来の同主席兼任（54.12～）と共に建国後も続く統一戦線工作の重要性を示している。党外関係者に対する懐柔・籠絡の成功例として一部の野党党首を覆面黨員にした事が有り、無党派の宋慶齡までが国家主席劉少奇（59.4.27 就任、65.1.4 再選）を通じて入党を申請した。81 年 5 月に慢性リンパ性白血病で危篤状態に成り 29 日に遂に亡くなった（歿年 88）が、党中央・全人代常委会・國務院が連日病状公告をし始めた 15 日に政治局が入党を許可し、翌日に全人代常委会が史上初の国家名誉主席の称号を授与し政治的な宣伝を最大化した。この手の重層的で鮮やかな価値追求は女性＋少数民族という日本に無い組み合わせにも現れ、直近の例として 2010 年 1 月に任命された外交部副部長傅瑩^{えい}（1953～、蒙古族）が有る。第 10 期全人代（03.3.5～08.3.16）では次期代表中の女性を 22%超にすると 07 年に決め、漸く実現した第 12 期の第 1 回年会（13.3.5～17）では彼女を史上初の女性報道官にした。¹³⁾ 性別を特定しない職名の「發言人」に当る英語の *spokesperson* は日本語には入っておらず、『広辞苑』では「スポークスマン【spokesman】」（＝「代弁者。特に、政府等の情報・見解を発表する担当者」）しか無い。「他」「他們」が一般。中国語の「他」は日本語の「彼」と同様に古くは人をも人以外の物をも指し男女俱に指したが、現代（1919 年「5.4 運動」以降）では性別が不明か特記の必要の無い場合にも使える。中国語の「工薪族」（「工薪」＝給与）の由来と為る日本語の「サラリー・マン」の様に、人や同種類の仲間は仕事・分野を表す語に就いてそれを仕事とする人である意の「マン」が適用する。中国の党中央・全人代代表等の名簿には「(女)」や少数民族の「(○族)」の附記も有るが、裏返すまでもなく絶対多数はあくまでも男性や男を意味する主体民族の「漢」

なのである。ニクソン米大統領 (1913 ~ 94, 69.1.20 ~ 74.8.9 在職) 訪中 (72.2.21 ~ 28) の際に、葉剣英 (1897 ~ 1986, 45.8 ~ 59.9. 66.1 ~ 86.10 軍委副主席, 序列 10 位の元帥) が万里の長城で、「不到長城非好漢」(長城に到らざれば好漢に非ず) という毛沢東の詞の名句を紹介すると、夫人 (12 ~ 93) は何故女性の出番が無いのかと冗談っぽく言い出し中国側の虚を突いた。¹⁴⁾

日本では 2001 年の再編で厚生労働省 (設置) が最大の中央省庁に成ったと言われる¹⁵⁾ が、1885 年に発足した大蔵省 (財政省・金融庁の前身) は戦後「官庁中の官庁」を為していた。中国の中央省庁の中で建国以来の伝統とし外交部・国防部が最重要の位置を占めており、20 世紀後期の日本の「昔陸軍、今大蔵省」と照らせば**軍事優先の遺風・現実**を感じるし、外交重視を示す前者は外交関係を司る米国国務省 (1789 年設置) の政府内の首席と重なる。米国大統領の継承順位では国務長官は副大統領兼上院議長・下院議長・上院仮議長に次ぎ、首席閣僚以下は財務・国防・司法・内務・農業・商務・労働・保健福祉等の長官である。¹⁶⁾ 日本では歴代外相中の女性として第 131 代 (2001.4.26 ~ 02.1.30) の田中真紀子 (1944 ~)、及びその更迭後の第 133 ~ 134 代 (2002.2.1 ~ 04.9.27) の田口順子 (1941 ~) が居り (過渡期の第 132 代は小泉純一郎首相 [42 ~ , 2001.4.26 ~ 06.9.26 在任] が兼務した)、1954 年設置の防衛庁から 2007 年に昇格した省の 2 代目大臣 (7.4 ~ 8.27) も女性であるが、省内の抵抗勢力と刺し違えた「女王蜂」小池百合子の頓挫は初女性外相の失脚と似通う。外相は勿論防衛庁長官の経験者も首相に成った例が有るので積極的な女性登用と言えるが、米国の次席閣僚に当り 6 人の経験者が首相に成った蔵相と後身の財務相は全て男性である。翻って中国では外交部・国防部のみならず財政部等の**重量級閣僚は男性独占**の歴史が続き、日本の事務・政務担当各 1 名より人数が通常倍以上の次官でも傅瑩は外交部の 2 人目で、史上初の副部長王海容 (1938 ~ , 74.7 ~ 79.2) は毛沢東の遠戚で一種の縁故登用に当る。若い王に対する抜擢は初代部長 (~ 58.2) で外交主管者の周総理を監視させる魂胆も有り、李徳全の例と合せてその時代の内閣高官の女性起用は**懐柔か懐刀に使う**意図が見て取れる。毛沢東死去時の女性閣僚に居た衛生部長 (第 3 代) 劉湘屏 (20 ~ , 73.7 ~ 76.10 在任) は、夫の謝富治 (09 ~ 72)、政治局委員・副総理兼公安部長、上将) の死後に任命されたので、「文化大革命」(66 ~ 76) 中の毛の寵臣である謝に対する**論功行賞**の継続支給の様に思え、初代と同工異曲の亡き要人の妻の起用を見ればこの職位は未亡人の受け皿の感さえ有る。日本初の女性閣僚は第 35 代厚生大臣 (60.7.19 ~ 10.24) 中山マサ (1891 ~ 1976) であり、^{ちょうど}恰度 100 日在職した同省は 38 年設置後の 63 年間の歴代大臣中 9 人が後に首相に成った。元外相・蔵/財政相並みの高い首相就任率 (同期間中 9 人、12 人) は**清潔好きの国柄**らしいが、中国の衛生部長は劉湘屏再任が決まった 75 年の閣僚順位は米国より低い 29 位中の 28 位で、現在は 2013 年発足の 23 の部・委員会の最後 (衛生・計画生育委員会に改称) に下がった。官庁の軽量級を思えば再編までの 11 代の部長中 3 人が女性である

事は重用の印象が薄い、女性の副総理（03.3～07.5）呉儀（1938～）の第9代（03.4～05.4）兼務が興味深い。

独裁「党国」と「警察国家」の特異性

初の女性副総理の誕生は建国から25年経ち毛沢東時代の末期に当たる1975年初頭の事で、その呉桂賢は王海容・呉儀と同じ38年生れで紡績労働者出身の**政治・行政の素人**である。毛は**革命の理想**から次世代を担う労働者・農民・軍人を党・国の指導部に入れようとし、副総理陣に女性労働者を加えるよう指示し周総理が**政治的な均衡**から推した呉を了承した。西安の労働模範として知られる彼女は「文革」中陝西省党委副書記等を歴任したものの、副総理（12人中8位）の荷が重過ぎ軽量級の紡績工業・衛生2部等の主管しか責務が無く、結局在任中に一部の時間を古巣の工場で労働に従事し78年3月に退任し生産現場に戻った。¹⁷⁾ 同期で副総理の末席に据えられた孫健（36～97）も労働者出身の天津市書記から抜擢され、呉と共に毛の思い付きに散々翻弄された末78年3月に解任され元の機械工場に送還された。¹⁸⁾ 共産党政権はこの荒唐無稽の人事が示した様に労働者階級を前衛的な階級としている反面、労働部は「文革」中に国家計画委員会労働局（70～）・国家労働総局（75～）に降格され、労働人事部（82～）への改称を経て復活した（88）後98年に労働・社会保障部に改組され、更に10年後の省庁再編で人力資源・社会保障部に变身し神聖な「労働」が蒸発してしまった。資本主義国家の米国の閣僚順位（第8）や日本での省名存続と比べて皮肉な感じもするが、5代の労働部長の顔触れを細見すれば2人の経歴から「**警察国家**」の**特異性**が浮かび上がる。3代目（88.4～12）の羅干（35～）は後に党中央政治法律委員会書記（98～2007）を務め、全国の司法・公安部門乃至国家安全部（1983年設置）等を統括する「政法王」と化した。4代目（89.7～93.1）の阮崇武（33～）の前職にも公安部長（85.6～87.4）が有るので、経済・政治の基盤を揺るがす労働者階級の不穏な動きに対する体制の警戒の傍証にも成る。毛沢東は第9期中央第2回全会（70.8.23～9.6、江西省廬山）に於ける憲法修正の審議で、労働者の権利を重んじる為からか「罷工」（同盟罷業^{ストライキ}）の自由の保障を追加するよう指示し、第10期1中全会（73.8.30）で副主席（5人中の2位）に選出された王洪文（35～92）も、「文革」初期の上海労働者「造反司令」としてその目に留まり後継者候補に立てられたが、当局にとって労働者の反抗は学生の民主化運動や市民の抗議並みに厄介なものに違いない。

同じ1973年の10月21日に第3代公安部長（70.6～）李震（少将）が公安部構内で自殺し、湖南省党・政責任者から後任に成った華国鋒（21～2008）は後に毛の後継者に指名された。華は副総理（75.1就任）から総理に昇格し（76.4）党中央・军委主席と成った（76.10）後、77年3月まで公安部長を引き続き務め政府・党の首脳に由る同部長兼務の特例を作った。近年「維

「穩」(安定維持) 予算が国防予算を上回り「警察国家」の様相を一層鮮明にしたが、歴代の国防部長は党・政の首脳が兼ねる例が無く党・軍内序列での最高記録は2位である。その林彪は第2代(59～71)就任の略同時(9.26)に中央軍委副主席(筆頭)に起用され、65年に副総理(16人中2位)に任命され翌年に毛の後継者として唯一の党副主席に成った。元帥序列3位の林は58年5月に政治局常委・中央副主席(5人中の末席)に選出されたが、副総理として部の序列と逆に外交部長陳毅(01～72, 元帥序列6位)の上に置かれながら、政府内では党内序列3位の周恩来の下に居り「副統帥」の地位との振れに甘んじていた。筆頭副総理の陳雲(05～95)は党内序列が5位で副主席就任は林より1年と7ヵ月早く、16人中3位の鄧小平は党内序列が林の1つ下なので副総理の排列も党の論理に規定された。陳は中央人民政府政務院の初代副総理の4人中2位で鄧は52年8月に同職に任命されたが、國務院の第1・2代の副総理(54.9, 59.4任命)の10人(後に2名追加)、16人の中でも、首位の彼に林彪・彭德懷・鄧小平・鄧子恢・賀龍・陳毅・烏蘭夫・李富春・李先念と続く。鄧子恢(1896～1972)は農業主管につき経済主管の陳と同様に重鎮級の椅子に着いたが、賀龍(1896～1969, 序列5位の元帥)・陳毅の順位にも見られる**年功序列**の要素も有ろう。元帥の序列と逆の林・彭の順は次の鄧小平と合せ考えれば**開国への貢献度**が思い当たるが、蒙古族である故に厚遇された烏蘭夫(06～88)と年上の李富春(00～75)の次の李先念は、鄧小平と同様に建国後党・政の職務が主と為る関係で軍の階級が授与されていないものの、政治局常務委員在任中の77年8月～82年9月に中央軍委常務委員を兼務し軍と関った。

「軍警統治」と中国的な**ピラミット**型集団

中央軍委が1989年11月に選定した33人の「中国当代軍事家」にはこの2人は入っており、同じ文官として毛沢東に次ぐ2番目の周恩来や元帥群と李の間の楊尚昆(07～98)も居る。李に継ぐ楊の第4代国家主席担当(88.4～93.3)は「**軍警統治**」の体現と見ても能かるうが、94年8月に建国前の物故者の追加で件の軍事家が36人に成った事も象徴的な意味を持つ。施耐庵(元[1279～1368]末・明[～1644]初)著小説『水滸伝』の中の108人の好漢は、第71回『忠義堂石碣受天文 梁山泊英雄排座次』(忠義堂に石碣の文を受け 梁山泊に英雄座の次を排む)¹⁹⁾に有る様に、義士同士の序列を決める際に上位36人の「**天罡星**」組と72人の「**地煞星**」組に分れた。氏名の前に各々の星座名が付されたの「**替天行道**」(天に替って道を行う)の発想であり、「天○星」の人数が「地○星」の倍に当るのは**中国の社会・組織に多い金字塔型**を呈す。追加された黄公略(1898～1931)・方志敏(1899～1935)・劉志丹(03～36)の中の黄は、毛沢東が30年7月に詞『蝶恋花・從汀州向長沙』(蝶恋花・汀州より長沙に向う)の中で、「**贛水那辺紅一角**、**偏師借重黄公略**」(贛水の**那辺** **紅**なる**一角**、**偏**の師は借重る**黄公**

略²⁰⁾と称えた程、紅軍第3軍団(30.6組成)副総指揮官として贛(江西省)西南根拠地を拓げた功臣である。方と劉も其々贛東北と陝(陕西省)北の根拠地の開闢・指導者として多大な功績を遺し、取り分け長征(34.10～35.10, 江西～陝西)後の中央紅軍に安住させた劉の功勞が大きい。俱に戦争中命を落した1回目の8人の中の数人より知名度が高いので些か遅きに失したが、公平性を高める挙措は梁山泊豪傑の上位陣と数が一致する様と成った処にも妙味が有る。偶数を好み発音が幸運・給与の「禄」(lù)に近い6(liù)を「吉祥数」とする中国では、11×3の33の「不完全」な感じより6×6の36が2重の好い縁起を感じさせて恰好が付く。

33→36の増加に由る無作為の合致から偶然の重なり合いと言われる「34—32」を連想するが、ラグビーワールド・カップ・イングランドスコアアフリカラ式蹴球の第8回世界杯英大会で日本代表がこの得点で南アフリカに逆転勝ちし、2度の優勝経験を持つ世界順位3位の強敵を同13位で倒す歴史的な番狂わせを記録した。選手同士の衝突が連続する同種目は体格差が実力に反映され番狂わせが極少ないだけに、同日(2015.9.19)の「安全保障関連法案」可決・成立と共にメディア賑わせたこの大金星は、連続出場の8大会で勝利したのが14年振りの2回目なので「奇跡」という贅嘆に値するが、「3の矢」等を用いた攻防で殊勲を立てた選手団から「奇跡は無く必然」とする論評が出た。²¹⁾現代中国の社会を見ても偶発的な出来事と結果には往々にして必然性の要素を帯びており、33人の軍事家の選定も鄧小平の軍委主席引退の3週間後に発表されたので計算の跡が有り、追加後の定着も「天罡星」陣と同数で縁起も座りも好いという集団的な美意識に合致する。メンデレーエフ(1834～1907)の大発見も小説より奇なる事実の作り方の好例であるが、彼の露西亜の化学者は元素の原子量とその化学的な関係を考える内に眠りに落ちてしま、夢の中で全ての元素が原子量の順に並ぶ表を見て目が醒めた後それを即座に書き留めた。其処で化学的な特徴の周期的な繰返しを思い付いたのは探究の末の天啓の賜物であり、後に預言通り新元素が次々と発見され元素周期律表の該当空欄が埋まる様に成った展開は、好く美の法則に適い社会の秩序に対応する天の摂理の有り形を「奇跡」の軌跡で見せた。1～18族元素を縦の行に並べた長周期型の表の縦18列・横7段(他に欄外2行)の枠組は、上の3段に半分強乃至大半を占める空白が生じ中央に大きな谷間が有る形と為っている。諸元素を巧く盛り込んだ表の「中空・凹型」は又老子の「谷神・天下谿」を連想させるが、梁山泊好漢の席次は中・下層を凌ぐ上層の内に更に頂点を内蔵する金字塔形の凸型である。「天罡星」(北斗7星の柄の星)の「罡」の「四・正」の字形に暗合する頂上の4人組は、天魁星呼保義宋江・天罡星王麒麟盧俊義・天机星智多星呉用・天閑星入雲龍公孫勝である。この作品を含む「四大奇書」(『広辞苑』の説明＝「中国の長編小説、水滸伝・三国志演義・西遊記・金瓶梅の四書をいう」)は「頂級」を定めないと気が済まない国民性の所産と思われ、1流の上に超1流を置く「超級」志向は中国の超大国化と中共の超大党(造語)化に繋がる。

せまられてりようざんにのぼる なればすなわちおうとなり まけるればすなわちぞくとなる
「逼上梁山」と「成則為王, 敗則為賊」

宋末の『大宋宣和遺事』（著者・成立年代不詳）に見える史実に由来したこの興亡物語から、「逼上梁山」（^{せま}逼^{のぼ}まられて梁山に上る。已むを得ず反乱する事や仕方無く行^やる事の譬え）という熟語が生れた。周恩来は1946年9月に米国の名報道人・評論家リップマン（1889～1974）と3回会い、第2次国・共内戦勃発（6.26）直後の緊迫した空気の中で個人と革命の歴史等を語ったが、その中で我々が革命の道を歩む様に成ったのは先天的ではなく全て「逼上梁山」だとした。²² 毛沢東は「文革」開始直後の66年7月8日に江青宛の手紙で林彪に対する警戒を吐露し、林の吹聴で起きた自分への個人崇拜を容認しない訳には行かない心境をこの熟語で表した。重大な問題で本心に違^{たが}えて他人に賛成したのは生れて初めだと言うので逼迫の程が分るが、林も後に毛の肅清の圧力に逼^はまれた余り包圍網を突破しようと「売国賊」の汚名を被り、当然入^{はい}れた「当代軍事家」の33人中「還有林彪」（^{また}亦林彪も有り）の形で末席に置かれた。「9.13事変」後の林は失脚後の劉少奇と同じく朝野から「姓+賊」の蔑称で呼ばれたが、蒋介石・毛沢東時代の国・共両党も対立中に相手の党首を「～匪/賊」と呼んで蔑^{さげす}んでいた。中国の格言に「成則為王, 敗則為賊」（成^{すなわ}れば則ち王と為り、敗るれば則ち賊と成る）と有り、「賊」が「寇」「虜」にも作るこの熟語は日本語の「勝てば官軍、負ければ賊軍」に当る。孫中山は国民党の在野時代の第1回次全国代表大会（24.1.20～30）の初日の演説の中で、中国史上の「成則為王, 敗則為寇」の慣習は近代文明国家では有って成らないと述べたが、その5年前に小説『狂人日記』で中国の近代文学の幕を開けた作家魯迅（1881～1936）は、雑文『談金聖嘆』（金聖嘆を談ず。月刊『文学』[文学社主催]創刊号、33.7.1）の中で、成語の中の「賊」は「流着之王」（流れ者の王）で「王」は「不流之賊」（流れぬ賊）とし、更に「王」とは簡単に言えば「坐寇」（居座っている寇）に他ならないと痛快に喝破した。

「成則為王, 敗則為賊」は羅貫中作・馮夢龍（1574～1646）増補の『三遂平妖伝』に見え、この「神魔小説」で描かれた王則（?～1048）の乱（47～48）に於ける妖術使い等の戦いは、指導者の氏名が「成則為王」の字面と重なる反乱が官軍に平定された史実が下敷と為る。大儒の誉れが名高い政治家王陽明（1472～1528）も地方の反乱や匪賊を鎮圧した事が有るが、彼は「破山中賊易、破心中賊難」（山中の賊を破るは易^{やす}く、心中の賊を破るは難^{かた}し）と言った。毛沢東と「紅軍の父」朱徳（元帥序列1位）は当初江西省井崗山の根拠地で勢力を拡大し、林彪も黄公略も井崗山時代（1927.10～29.1）の紅4軍の「3驍将」（^{びやうしょう}驍将）として知られている。山奥に蟠踞^{ばんきょ}した「賊軍」の中共軍は最終的に国民政府の国軍を負かして「官軍」と為り、逆に台湾に流亡した国民党は国際社会でも中国の合法的な代表と認められなく成った。『談金聖嘆』(5.31脱稿)の発表日「7.1」は38年から中共の創設記念日と定められたが、建党50周年（71）の「党慶日」の翌々月に毛の無謬性をぶち壊す「林彪事変」が起った。10月25日に国際連合（45.10.24

成立) 総会で中華人民共和国の議席が到頭認められたが、「蔣匪」政権を追放した快挙も本土「王者」陣営の人・心の「賊」の危害を補い切れない。林が「宮内賊」(造語)に仕立てられたのは「逆臣」の「最高権力篡奪」の邪念の為とされ、国盗りの絶対悪の形象を現す様な「窃国大盗」(国盗りの大盗)の存在に作り上げられた。当局はその「賊船」(海賊船。転じて悪人の集団)を恰も突然変異の産物の様に説明したが、林の有罪か無実かは別として中共の党内・国内の支配権争奪の欲望は伝統的に凄まじい。窮境に逼られて梁山泊に入り「盗賊」に成った宋江(生歿年不詳)等の緑林好汉集団は、初代首領の「白衣秀士」王倫を新人の「豹子頭」林冲が殺したのが体制形成の端緒である。毛沢東と朱徳が建軍の南昌蜂起(27.8.1)後の挫折で逼られて相繼いで井岡山に登った時、当地の農民自衛軍の首領である袁文才・王佐(共に1898～1930)の了解で立脚の地を得た。2人は後に入党し其々紅4軍副参謀長と紅5軍第5縦隊司令官等の要職に起用されたものの、此等の匪賊の頭は縦令革命の協力者でも利用後は殺害すべしという党中央の指令も有って、古巣での権勢を削がれた上で中共湘(湖南)贛辺界特別委員会の手先に同日に謀殺された。²³⁾ 袁・王の「占山为王」(山を占拠して王を為すこと)も『水滸伝』の王倫の轍を踏んだが、林冲の下剋上の斬殺に似た「火併」(仲間割れして殺し合う)や有力者に由る乗っ取りは、井岡山根拠地の創設者に対する吸収合併・肅清を始め中共の歴史で様々な別の形で現れた。山頂の意から山の砦や派閥を言う「山頭」に因んで上記の経緯は「山頭盗り」と形容でき、「山頭主義」(派閥志向)は戦争時代と前近代的な觀念の遺物として建国後の中共に残った。

内訌が多く党・軍盗りが怖い中共の弱み

格上の敵の自陣での反則を再三誘った捨て身の驚進も件の日本代表の勝因に有ったが、政治・軍事等の闘争に於いても敵失を利用して実力以上の成果を獲得する例は珍しくない。勝負事で予想外の結果が出ることを表す「番狂わせ」に当る中国語は「爆冷門」と言い、「冷門」(一般に注目されていない分野や人気の無い仕事、穴場等)の「爆」(炸裂)は、草創期には精々「穴馬」でしかなかった中共の最終的な「爆勝」(造語)にも当て嵌まる。1931年11月7日に江西省瑞金県で成立し毛沢東が主席と為る「中華蘇維埃共和国」は、最盛期でも中国全土の4%しか支配しておらず政府軍の討伐に弱小化が進む一方であった。中央紅軍(紅1方面軍)は中央根拠地から敗走した後6週間で8万人から3万人に鋭減し、翌年6月に四川で紅4方面軍と合流した時には戦闘・遭難・疾病で1万人にまで減員した。3大方面軍(1、2、4)の中で最多の8万人強を擁した後者の総帥張国燾(1897～1979)は、毛の懐柔策で新たに紅軍総政治委員・軍委副主席の要職に就いたのに権力欲が満足できず、兵力の圧倒的な優勢に頼って中央紅軍を傘下に収め党・軍の最高権力を奪おうとした。彼は部下への秘密電報で徹底的な党内闘争を

展開し武力に由る解決も辞さないと指示し、4方面軍参謀長葉劍英の密告を受けた毛は直ちに主力を率いて内バケの危機から脱走した。毛は60年に35年9月9日のこの決裂が生涯の中で最も暗黒な時だったと振り返った²⁴⁾ので、**国内外の敵に対する戦争よりも内訌や下剋上の党・軍盗りを恐れる中共の弱みが窺える**。軍委認定の「当代軍事家」の第1陣33人の中の許継慎(01～31)・曾中生(00～35)は、張の猜疑と権力維持の為に「反革命肅清」の大義名分で冤罪を被せられ秘密裡処刑された。張は毛と共に初回党大会(27.7.23～7月末又は8月上旬、上海→浙江省嘉興)に参加し、陳独秀・李達(1890～1966)と共に中央局(指導部)^{メンバー}成員と成り組織工作を主管したが、宣伝主任の李は23年に国共合作に反対し党首の陳(1879～1942)と衝突した末に離党し、陳書記(25.1より総書記に改称)は27年8月に対国民党の軟弱を糾弾されて解任と成り、反対の政見に由る除籍(29.11)を経て「中国共産党左派反対派」総書記に就任し(31.5)、張も35年10月に4方面軍の本拠に残った朱徳等を強引に従わせて「中央・軍委」を立てた。冒険的な軍事行動の失敗等が招いた実力と求心力の低下に由って翌年6月に取り消しが、当初の「3駕馬車」(3頭立て馬車)^{トコロイカ}の**相次ぐ離反は草創期の中共の脆弱性を物語っている**。

「中華蘇維埃共和国」副主席(2人中2位)の張はこの非合法政権の解散(37.9.22)後、国民政府行政院(内閣)直轄の陝甘(肅)寧(夏)辺区(9.6成立)政府の副主席を務めたが、第2次合作(37.9～)中の国・共両党の黄帝陵(陝西省中部県)合同参拝(38.4.4)の際に、中央所在地の陝北延安に帰らず武漢に脱走し周恩来の説得を蹴って国民党の軍門に下った。最初に頂点に立った3人の結末は「**3矢の教え**」さえ無力だった**党の幼年期**の実態を示し、敵から「烏合の衆」と見下された中共の窮地脱出も正にその膿を出し切った処で始まった。日中戦争勃発(37.7.7)の御蔭で全民抗戦の大義の下で共産党は実力温存・拡大の機を得て、更に第6期6中(拡大)全会(38.9.29～11.6、延安)で毛が実質的な指導者に推された。共産主義国際組織(19～43)^{コミンテルン}の意思に由るこの人事は数代の党首の失敗を鑑みた結果で、長征初期の政治局拡大会議(35.1.15～17、貴州省遵義県)で政治局常委会に入った毛は、政治局・書記処主席就任(43.3)までの8年間でも党・軍に対して強い指導力を発揮した。正面戦場で国民党軍と日本軍と潰し合った後で中共軍は満を持して一騎打ちの決戦に臨み、「転守為攻、以弱勝強」(守勢を覆して攻勢に転じ、弱者を以て強者に勝つ)の結果を導き、「後來居上」(後から成る人・物が従来の方を追い越す)と言う下剋上の戦果を勝ち取った。解放軍は遼(西)^{しん}瀋(陽)戦役(48.9.12～11.2)の勝利で敵との兵力の優劣を逆転させ、平津戦役(49.1.29～49.1.31)で破竹の勢いで天津の攻略と北平の無血開城を実現させた後、一気に首都南京を占領し(4.23)又開国大典(10.1、北京)後間も無く本土を略制圧した。「反敗為勝」(敗勢から勝利に転じる)・「反客為主」(客が逆に主人と為る)の逆転勝ちは、「**兩軍相逢勇者勝**」(兩軍が遭遇すれば勇氣の有る方が勝つ)という格言の証明にも成るが、**片手で握手し合い片手で殴り**

合う様な国共合作は結局「盗塁」の成功が勝利に繋がった。苦戦・苦節 21 年後に 1 年で快進撃の連続で圧勝を収めたのも「必然の奇跡」の名に値し、20 世紀の第 2 の 4 半世紀に激しく競り合った両党の勝敗は世紀の番狂わせとも言えよう。

「真空総理」後任の番狂わせと密室談合

「番狂わせ」の予想外の出来事で順番が狂うことの意は政治の世界でも^{しばしば}起きており、^{ラグビー}ラ式蹴球の話に引っ掛けるなら森喜朗（1937～）の首相就任（2000.4.5）を思い起す。対南^ア阿戦勝の 15 年に日本ラグビー協会（1928 年成立）会長から名誉会長に成った彼は、同種目への長年の憧れから 56 年に早稲田大学（1882 年創立）に進み^{ラグビー}ラ式蹴球部に入った。過酷な訓練に由って吐血し胃潰瘍を^{かか}罹った故 4 ヶ月で選手への夢を断ち雄弁部に転じたが、梁山泊の様な群雄並立の熱気が立った当時の同部の仲間と同年（19 日年上）の小淵恵三は、外相（1997.9～）として出馬した自民党総裁選（98.7.24）に勝ち 6 日後に首相と成った。彼は自由党（98.1.6～2003.9.26）との連立政権の発足（1999.1.15）で基盤が安定した後、「周辺事態法」「通信傍受法」「国旗・国歌法」「住民基本台帳改正法」等多数の重要法案を、国の命運や国民生活の根幹に関する故 1 つでも内閣が吹っ飛ばそうなのに次々と通過させた。多数決の論理の下で力の数を頼みにし^{やすやす}易々と大量成立を遣って退けた^の首相は初めてであり、中曽根康弘は「真空総理」と名付け中が真空だから何でも吸い込む吸引力が有ると評した。²⁵⁾ 同じ前首相で小淵・森内閣で蔵相（98.7～2001.1）・財務相（～4）を務めた宮澤喜一は、小淵の総裁再任の直前の 1999 年 8 月に宮澤用箋と印された便箋 3 枚に達筆な走り書きで、「いわゆる“真空”の効用について老子の説くところを高覧に供します。/大成若欠。其用不弊。/大盈若沖。其用不窮。/大成は欠けたるが如く其の用弊^{やぶ}れず、大盈は^{だいえい}沖しきが如く其の用窮^{むな}まらず/本当に完成しているものはどこか欠けているように見えるが、いくら使ってもくたびれれがこない。本当に充実しているものは一見無内容に見えるが、いくら使っても無限の効用をもつ」と抄録・解説し、出典の「老子第 45 章」まで記して^{げんがく}揶揄・^{つもり}銜学を交えた激励の心算が彼に贈り感激された。²⁶⁾ 当人は自由党との連立が決裂した日（2000.4.1）この緊急事態に就いて記者から訊かれた時、一過性の脳梗塞の症状と思われる 10 秒程の不自然な無言状態が生じて即答できなかった。その「中空」（途中からの空白）発生の当夜に彼は心身の疲労の蓄積に由る脳梗塞で倒れ、その後意識が戻らない儘 4 日の内閣総辞職等の動きも知らず翌月 14 日に不帰の人と成った。然様の緊急事態の想定と代理・後継者を予め定めて置く等の対応策が無い「真空」の隙に、早大雄弁会の先輩に当る内閣官房長官青木幹雄（1934～）が首相代理の指名を受けたと、廃人に口無し（植物人間状態に由る言語能力喪失）の状況に乗じて権力の頂点に踊り出た。緊急入院（未明 1 時）の 11 時に青木と同じ小淵派の野中広務（25～）幹事長代理、森派の森幹事長、江藤（隆美、25～2007）・

亀井派の亀井静香(36～)政調会長・村上正邦(32～)参院議員会長と共に善後策を協議し、日付が変わる頃に再度の「5人組」談合で首相代理は青木、後任総理は森と勝手に決められた。5日の自民党両院議員総会の選挙と衆参両院本会議の指名を経た総裁・首相誕生ではあるが、「森でいいじゃないか」という村上の1言で決り森も領いたのは恣意的の嫌いを否めない。

池田幸彦(1937～2004)総務会長(加藤[紘一, 1939～]派)や同職代理者の不在で、87年総裁選の公式協議等でも好く行われた定番の3役又は4役会議の体裁も整っておらず、通常の党本部でなくホテルニューオータニの密室に集まった事も密会の印象を免れない。公党の公務を行うのに自前の本拠を使わず高い出費が付く民間の施設を利用した挙動は、経済的な合理性を勘案しても「料亭政治」より説明し難い不透明さを感じさせて成らない。評論家・書店主の山本七平(21～91)は『日本人とユダヤ人』(山本書店, 70)の冒頭で、安全・安心を買う為に国賓も泊まる紐育の名門旅館に住む猶太人の話を取り上げている。身の危険を何時も覚えるのは日本人にとって異常な事態だが彼等には2千年続いた常態だ、という「平和惚け」の自国と多難な異邦との違いに関する指摘²⁷⁾は日・中間にも適用する。ニューオータニも件のウォルドルフ・アストリア(1893年開業)並みに国賓の宿泊が多く、胡锦涛国家主席(1942～, 2003.3～13.3在任)訪日(08.5.6～10)の場合も然様であり、帰国前日に天皇(1933～, 89.1.7即位)・皇后(34～)が慣例に従って其処を訪問した。米国を公式訪問する昭和天皇(01～89, 26.12.25即位)と日本首相の紐育での宿泊先は、同市を訪れる外国の元首や歴代の米大統領と同じくウォルドルフ・アストリアであったが、2014年に中国の安邦保険集団(04年成立)に買収され且つ大規模の改修が予定される事で、オバマ大統領(1961～。2009.1.20以来在任)は15年にこの定宿の利用を取り止めた。中国側の盗聴への警戒が理由として囁かされた²⁸⁾のは防諜意識の強い国柄の現れであるが、習近平主席が訪米(15.9.22～28)中この「王宮」に泊ったのも安全保障の考慮が有ろうが、『日本人とユダヤ人』の上記事例で言及された「国の顔」故の厳重な警備と快い心地は、究極の「私密空間」を求める自民党「5人組」の密会場所の選定の要因に入るかも知れない。東京の洋風旅館「御3家」に入る同超一流施設は東京五輪(1964.10.10～24)に合わせて、超法規的な措置で昼夜兼行の突貫工事(63.4.1～64.8.31)で通常の半分の期間で出来た。関東大地震(23.9.1, M7.9)に因んだ「防災の日」(61年制定)に開業したこの新名門は、本館の高さ73¹が国会議事堂主塔(36年落成)を8¹超え一躍して日本1の座に登った。当初の23階が17階に成った設計は見切り発車の建設と並行して推進・変更された物で、超高層建築物の建築基準法もこの半官半民の工程が契機で改めて整備が為されたのである。²⁹⁾小渕官房長官が年号を発表した平成(87.1.7～)の「失われた20年」は海図無き航海の感が有り、世紀・千年紀の交の不透明な首相交代は超法規の突貫決定でも密議の場の由来に似合う。

この際のように首相が臨時代理予定者を指定しない儘執務不能に陥った事態を回避する為、森

政権から組閣時等に総理臨時代理予定者5名を決める様に成り制度の補完が出来たが、小渕首相の外国訪問時に12回指名された代理は例外無く官房長官(野中・青木)なので、青木(99.10.5就任)は失語の小渕の言葉を無理に作らなくても代理に成れたはずである。問題は「女房役」として引き続き内助した次の内閣(第1次、～2000.7.6)の「主人」で、前回総裁選(99.9.21)で次点を獲った加藤より出馬経験も無い森の浮上は順当ではない。加藤は党内第2派閥で保守本流の「宏池会」(57年成立)の領袖(98.12～2002.3)であり、森が2度担当した幹事長(1993.7～95.8, 98.7～2004)の経験も有る(95.10～98.7)し、官房長官(91.11～92.12)等を歴任した実績も有って小渕の次の総理と目する向きが多い。森の当選には**現・元幹事長の強みや党内主流派の位置、同窓の協力等**の要素が重なったが、**小渕政権を支える貢献への見返り**で常識に反して補欠の好機が盪回しにされた訳である。最大派閥の小渕派(経世会[87.7～94.4]・平成[政治]研究会, 92.10会長就任)に代って、森派(清和政策研究会[62～94, 98復活])は2005年の総選挙(9.11)後に最大と成り、長期政権を誇る小泉純一郎・安倍晋三(1954～)と福田康夫(36～)の3首相を出した。3人の連続在任(2001.4.26～06.9.26, ～07.9.26, ～08.9.24)と安倍の再起(12.12.26～)は、民主党(1996.9.28成立)政権(3代, 2009.9.16～12.12.26)を除く今世紀以来の期間に、最初の森の第85～86代(～01.4.26)と合せて自民政権の略全ての時期を占めて来た。結成時に「8個師団」と称される8派閥が有った自民党は60年経っても旧態依然であり、**政界等の要職の人事を陰で操る陰の実力者の暗躍と再生産は当分の間に変る見込みが無い**。代議士引退(12.11)後も政治活動と20年東京五輪・^{オリンピック}国際身体障害者競技大会組織委員長を務め、末に19年^{ラグビー・ワールド・カップ}ラ式蹴球世界杯に合せて新国立競技場の設計を急いだ失敗の責任を指摘された。78歳誕生日(15.7.14)の3日後に安倍首相の整備計画白紙撤回の決断を洩々了解したが、建設費用の高騰を招いた迷走に1枚噛んだとして世論の輦轡を買い晩節を汚した顛末は、完全引退(04.9.19)の11年後も天安門城楼の中央に立った89歳の江沢民の不評と重なる。「9.3」抗日・世界反ファシズム戦勝70年記念式典で江が側^{そば}に居るのを許した**習近平は、中共党首の誕生劇に多い番狂わせの中でも劇的に底辺から上り詰めた稀有の存在である**。

注釈

- 1) 本稿中の年齢表記は当該時点での満年齢を基準とし、歳が変る誕生日の直前でも厳格に適用するので、年単位の計算に基づく多くの記述と異なる個所が以下一部有る。
- 2) 『自民党の総裁選告示/官沢、安倍、竹下 3氏が立候補/本選は20日に実施/投票、調整 予断許さず』、『毎日新聞』1987年10月8日夕刊。
- 3) 注2に同じ。
- 4) 小川環樹・金田純一郎訳(『完訳 三国志[六]』, 岩波文庫, 1988年改版, 70頁), 但し句読点を付け「是れ」を「是^{これ}」に変えた。

- 5) 沈伯俊・譚良嘯編著、立間祥介・岡崎由美・土屋文子編訳『三国志演義大事典』、潮出版社、1996年、178頁。
- 6) 尾崎秀樹『司馬遼太郎の世界 国盗り物語 (前編) 斎藤道三——篡奪者の系譜』(『司馬遼太郎全集』第10巻、文藝春秋、1971年、496～497頁)より。
- 7) 注6に同じ、496頁。
- 8) 趙啓正著、夏剛・永井麻生子訳『中国はコミュニケーション・ギャップをこう乗り越える 対外交流心得 98章 (中日対照版)』(かもがわ出版、2012)第98章訳注 (夏剛)、318頁。
- 9) 頼賢超 (南方週報記者)『野心的丈量 侵華日軍の兵要地志』、『南方週報』2015年5月21日。
- 10) 石塚由紀夫 (編集委員)『「おなか痛めてこそ母」の壁 / 無痛分娩ではダメですか / 体力を温存 / 施設不足など課題』、『日本経済新聞』2014年8月6日夕刊。
- 11) 原克彦 (ジュネーブ)『男女平等指数 / 日本は104位 / 142カ国中 / 女性活躍進まず』、『日本経済新聞』2014年10月28日；『世界男女平等度ランキング』、「世界経済のネタ帳」サイト (発布日未記載、最終閲覧は本部分脱稿の15年9月25日 [後出ネット情報は同じ])。
- 12) 顔昊・朱薇・韓潔 (記者)『中国最高国家権力機関女性代表比例達到歴史最高水平』、『新華網』2013年3月8日。日本では伝統的な思想と習俗の影響に由って、現職の722人の国会議員中の女性は3.5%に当る25人しか居ないと書かれたが、『女性政治家』(「ヴィキペディア フリー百科事典」)で示された同じ頃の女性国会議員の割合は、参議院では480人中38人 (総選挙の当選議席数)、参議院では242人中39人 (通常選挙後の国会召集日の議席数)が居た。猶、同年の世界平均も『女性政治家』に拠る。
- 13) 顔昊・朱薇・韓潔『中国最高国家権力機関女性代表比例達到歴史最高水平』。
- 14) 陳敦徳『毛沢東・尼克松在1972』、昆侖出版社、307～308頁。
- 15) 藤吉雅春『厚労省 孤立する“ザ・膨張官庁”』(『文藝春秋』2013年10月号)に曰く、「厚労省は日本一巨大な役所であり、“ザ・膨張官庁”といえる。」(183頁)
- 16) 『アメリカ合衆国大統領の継承順位』(「ヴィキペディア フリー百科事典」)に拠る2014年7月30日現在の順位。
- 17) 黃禹康『吳桂賢從副總理到副總經理的人生之路』(『東西南北』[隔週刊、吉林日報報業集團]2014年18期)等。
- 18) 王筠『從國務院副總理到公司經理：孫健的特殊人生軌跡』、『家庭』(隔週刊)1998年11期。
- 19) 清水茂訳(『完訳 水滸伝 [七]』、岩波書店、1996年、309頁)。但し、表記・書式に微修正を施し一部の振り仮名を略した。
- 20) 竹内実訳(武田泰淳・竹内実『毛沢東 その詩と人生』、文藝春秋新社、1965年、115頁)。本稿中の毛沢東詩・詞の訳は基本的には竹内実訳に拠るが、個別の表記・書式で適宜変え一部の振り仮名を略した処も有る。
- 21) 吉見裕都『日本 南アに歴史的勝利 / ラグビー W杯 / 24年ぶり白星 / 猛練習 “必然の奇跡”』(『毎日新聞』2015年9月21日)に、「体格で劣る日本のタックルでは、相手が止まらない。まず足を止め、2人目、3人目が上半身にタックルに行った。豊富な運動量が“二の矢”“三の矢”を可能にした」と有り、「(勝利は)必然。ラグビーに奇跡なんてない」という五郎丸歩 (1トライを含む24得点を上げた選手、ヤマハ発動機)の談話が引かれた。
- 22) 中共中央文獻研究室第二編研部編著『周恩来自述』、人民出版社、2006年、20～21頁。
- 23) 袁建芳『我的爺爺袁文才』(江西人民出版社、2011年)に詳述が有る。

- 24) エドガー・スノー（米国の報道人^{ジャーナリスト}）との談話，少華『從擁抱到決裂——毛沢東与張国燾（之三）』（『党史文苑』紀実版〔月刊〕2014年第9期）。
- 25) 塩田潮『安倍首相が学ぶべきは小渕氏の「歴史の教訓」』，東洋経済オンライン，2013年2月1日。
- 26) 佐野眞一『凡宰伝』，文藝春秋，2000年，217～218頁；田勢康弘『宮沢さんの無愛想の魅力』，月刊『FACTA』2007年8月号。
- 27) イザヤ・ベンダサン（山本七平の筆名^{ペン・ネーム}）『日本人とユダヤ人』（20版），山本書店，1971年，9～11頁。
- 28) 五十嵐文〔シアトル〕『米大統領の定宿 習氏が宿泊』，『読売新聞』2015年9月24日。
- 29) 山川清弘（『週刊東洋経済』副編集長）『知られざる東京「ホテル御三家」の底力 ニューオータニに見る，和製ホテルの進む道』，東洋経済オンライン，2014年4月7日。

（夏 剛，立命館大学国際関係学部教授）

中共高层的暗斗、妥协和自民党派系的抗争、融合（1）

本文以 1987 年日本自民党总裁选举为切入口，对中共高层的暗斗、妥协和自民党派系的抗争、融合试加比较。

本部分作为绪论，注视两国的历史、政治文化所规定的两党之特质的相通及相异之处，首先着眼于“兄弟团结”的理想和“同根相煎”的现实，从日本战国时代的“窃国”、“下克上”及其传统在当今的继承，联系中国历史上充满欺瞒、杀戮的乱世、暴政的基因。

进而由神话中西方的“原罪”发现日本的“原耻”，从 3 皇 5 帝传说中可见的男性优势和现实主义，提炼出炎黄抗争及女娲补天所启示的“原难”。由日本神话的“中空结构”、日本的“凹型文化”联想中国社会的“中控结构”、“凸型特质”。

对比日本政界男性居优势和中共“党军复合体”顶层由男性独占的实情，深掘中国主体民族名称的寓意及“先军”遗风。从古今“秦始皇”的集权、好战本性，思考独裁“党国”、“警察国家”的特异性，剖析“军警统治”和中国式金字塔型集团的本质、样态。

接着通过审视历史上层出不穷的“逼上梁山”、“成则为王，败则为寇”，揭示中共多内讧及畏惧篡党、篡军的弱点，最后转而抨击“真空总理”小渊惠三病倒后“5 人帮”决定继任者的暗箱操作。

（夏 刚，立命馆大学国际关系学院教授）

